

優先権を與へられてゐる。例へばフランスに於いては、之等給付金生活者には減免税の特典を與へ、生業資金の貸與をなし、小住宅の購入に對し補助金を交付する事になつてゐる。又フランスに於いては一定數以上雇傭人を有する私設會社工場は其使傭人全體の或るパーセント迄之等傷痍軍人を雇傭すべき事を法律を以て規定して居る。英國に於いても同様に彼等を出来る丈産業に吸収せしめやうと努力したのであるが、特別の法律を制定するのではなく、私設の會社工場側の自主的協力に依ることとしたのである。又之等の傷痍軍人中教育ある者又は優秀なる才能を有する者を農園に於いて使用せしむるために、英國政府は或は特別の再訓練機關を設けて、無料にて再訓練期間中の生活を支へ乍ら農事指導をなし、或は農科大学等にて修學せしむる等の事をなした。此等各國に於いては何れも傷痍軍人のための救済機關はその公營たると私設たるとを問はず、住居及び勞作場の設備を有して居つたのである。

(三) 歐洲大戰參加諸國の恩給政策

戰爭の結果疾病に罹りたる退役軍人及び其死に依りて生じたる寡婦に對する保護及び生活支持は北米合衆國に於いては殖民時代からの傳統的政策となつてゐる。南北戰爭後間もなく大陸議會 (Continental Congress) は、戰爭に依る傷病兵及び寡婦に對する扶助金を制定した。而して財政は中央政府の支出に依る事とした。又歐洲諸國に於いては扶助金の給付は普通直接戰爭の結果として不具、疾病、死亡等に遭遇したる者又は其家族に限つて居るが、フランスは例外であつて、戰爭に参加した丈にて交付金を受け得る事になつてゐる。歐洲の制度の今一つの特徴は、戰後に於て此種給付金の支出は一旦頂點に達したる後、徐々に減額される仕組になつてゐるのである。而して北米合衆國に於いては歐洲に於ける如く、戰爭に依つて生活不能になつた者及び其系累に對して年金を給付することになつてゐる。而して、扶助

金を受け得る不能の程度は歐洲諸國のそれよりも低く、之に反して給付の額は歐洲のそれよりも高い。而して又入院加療及び生活能力回復のためには非常に大規模の説備及び手段が講ぜられ、之等の利用者の資格に就ては非常に寛大で、直接戰爭に依つて傷病を受けた事の明瞭なる場合のみならず、斯様に推定される丈でよい事になつてゐる。然し北米合衆國に於いては、軍人に對する給付金の大部分は戰傷病者以外の退役軍人に支給される。即ち戰爭に参加したといふ事丈で補償を受け得ると云ふのが、此國の常識になつてゐるのである。加之恩給は逐年増加するのであつて、現行法を以て計算する時は、歐洲大戰參加退役軍人のための恩給支給は一九五八年に最高額に達する譯である。處が他方英國に於いては一九六〇年即ち其二年後に於て此等退役軍人に對する年金は全然無くなる事になつてゐる。斯くして北米合衆國は歐洲大戰參加軍人中の傷病者の數は他の歐洲の參戰列強國よりも少なかつたに拘らず、その恩給金支給額は他の參戰國の何れよりも高額に達してゐる。一九三一及び二年に於いては英、佛、獨三國の費用を合したるものよりも高額であつた。此事は直接傷痍軍人のケース・ワークに依る救済と直接關係はないが、極めて興味ある事柄なので茲に記する譯である。

(四) 生活能力の再建 (Rehabilitation)

以上傷痍軍人の救済の第一歩としての入院加療及び扶助金の交付に就いて歐米諸國が歐洲大戰當時及び其後如何になしたかに就いて觀察したのであるが、此研究の眞の目的は此等の戰傷病者の永久的生活能力の回復再建のための方法であり、更に其のケース・ワークの立場からの研究でなければならぬ。之を英語では「リハビリテーション」と謂ふのであるが、傷痍軍人に對しても、他の交通禍や産業に於ける災禍のために不具廢疾になつた者に對する方

法と共通な點が多いので、一般の不具廢疾者に對するリハビリテーションに就いて研究を進め、次いで戰傷病者の場合の特徴に就いて考へる事にする。

生活能力の回復と云ひ再建と云ふも要するに職業的、再教育が其中心である。然し乍ら無論職業能力の回復のみではない。他に人格者として回復又は再建すべき事が少なからずあるので一般に再教育 (Re-education) とか生活能力の回復又は再建 (Rehabilitation) と云ふ譯である。而してケース・ワークとして不具者の問題を解決し、彼等を救済しようとするのは斯かる意味に於いて不具者の全人格的更生を目指してゐるからである。然し狹義に解釋したり、又實際に於いてなされる事の大部分を見ると此生活能力の回復即ちリハビリテーションといふ事は「實収入を以て經濟生活に復歸すること」(Definite Remunerative Placement in the Economic World) を目標とするものであつて、生理的、心理的、社會的等の諸方面からの調節や再訓練も要するに、此一事を目掛けてなされるのである。不具廢疾者の再訓練には近來作業治療 (Occupational Therapy) と云ふことが非常にやかましく云はれるやうになつたが、之は患者に精神的又は肉體的に具體的な方法で作業をなさしめて、傷害又は疾患の回復を速かならしめるものである。而して之は決して常識的な方法でなさるゝものではなく、適確なる科學的根據に基いて、醫師との協力に依つてなさるゝものである。此の作業治療は近來歐米の病院に於いて非常に廣く應用されてゐるもので、不具廢疾者の職業的再訓練には特に重要な役割を演ずるものであるから、後に更に詳しく述べることにする。

リハビリテーションに依つて、經濟的に正常な生活を再びなし得るやうに不具廢疾者を救済保護するのであるが、不具廢疾の程度や種類に依つては、如何にしても全然一人前に生活能力を回復することが出来ない場合がある。斯かる場合は國家的に或は私設の社會施設で特に彼等のために手段を講ぜねばならない。此等一般經濟生活に立ち得ない

人々を保護し、しかも出来る丈の仕事をする事に依つて、肉體的及び精神的活動をなさしめるものを北米合衆國では授産舎 (Sheltered Workshop) と稱してゐる。然し之とても國家又は各種社會事業施設がいつ迄も世話をなす譯でなく、私設會社工場又は一般産業が早晚引受けて彼等を消化し得るやうにしてゐるので、それ迄一間の實驗的試みであるといへやう。即ち米國に於いては此種の授産場は出来る丈此等の不具廢疾者を一時保護し職業的再訓練を與ふる事を目的として、出来る丈速く一人前の職業人として一般産業界へ送り出すやうに心がけてゐるのである。唯如何にしても普通の職業人として再び一般産業界に出られない者のみを永久に保護するのである。米國の此種の授産場には創始されて既に二十年以上になるものもあるが、大部分は歐洲戰後に開設されたものである。然し之は決して歐洲戰争に依る不具廢疾者のみを對象としてなされてゐると云ふ譯ではない。事實肺結核回復期患者、心臟疾患者、産業其他の災害に依る不具廢疾者、盲人、一般窮貧者、無宿者、寡婦及び失業者等のためにも開放されてゐるのである。

シカゴ市に於いてユダヤ人社會事業局が其取扱へる被救済者のために一九一七年に開設した授産舎に於いては、肉體的又は精神的不能力者に生産的仕事をなさしめて、救恤金の部分的返済をなさしめてゐる。賃金は初め時間に依つて支拂はれたが、後に最低賃金法に代はつた。現在は最低額以上に稼ぎ得る者には受取勘定で支拂つてゐる。而して被救済者が一人前に働けるやうになれば、必ず産業界に就職せしめる事として居る。又年少不具者には職業的再訓練に特に力を注いでゐる。

不具者が愈々再訓練を完了して、職業線に立ち得るやうになつた時は種々なる事項が考慮に入れられねばならない。先づ彼の一般的才能は何であるかといふこと、次に彼の不具の種類、不具以外の肉體的及び精神的狀態、不具になる以前の經驗、再訓練に依つて得た新技能等が重要な事項として取上げられねばならないのである。

斯く観する時にケース・ワークとしての不具廢疾者の救済は、肉體的及び精神的不能力の解消及び精神的道德的更生等を個人的に監督指導してなさしめるのであるが、特に強調すべきはいつも職業的再訓練といふ事であつて、必ず一人前の職業人として、彼等が當に國家社會の永久的負擔となる事を防ぐのみならず、積極的に有用なる生産者となり、社會人となり、國民とならん事を期するものなのである。

(五) 作業治療 (Occupational Therapy)

作業治療に就いては前に少し論及したが、不具者の生活能力の回復の科學的方法の一つとして近來非常に重視されるやうになつたものである。作業治療とは「作業に依る治癒の方法」を謂ふのであるが、疾病又は傷害からの治癒を速めるの目的を以て、適確に考慮され、處方された肉體的又は精神的活動からなるものである。治療 (Therapy) とは適確なる目的のための處遇 (Treatment) である。作業治療は決して、患者に唯何かさせて、氣を紛れさせて置けばよいといふやうな無思慮なものではない。之に反して肉體的に、精神的に、或は社會的に患者の要する具體的な、一人々々の特殊な必要事項に對して、適確な治療的手段を講ずることを意味するのである。作業治療の起源は一七九一年フランスに於てビネルが精神病患者を、監禁より解放して、種々なる仕事や遊戯をなさしめたのに見出されるが、前述したやうに歐洲大戰後非常な進歩を遂げ、現今に於いては歐米諸國に於いて廣く整形外科患者、神經諸疾患に對する手術恢復期者、一般外科患者、精神醫學患者、肺結核患者、心臓疾患患者、一般内科患者、慢性諸疾患及び諸種の不調整を有する者等のために應用されてゐる。

精神的疾患に罹つた者は、其疾患に依つて氣分を落着かせるのと、引立たせるのと各々異なつた手當を要する譯で

ある。整形外科患者は醫師の監督の下に適當な作業をなすことに依つて大いに利益を受けるのであるが、それは身體各部の關節の運動を適宜になさしめるやうになつてゐるばかりでなく、興味を以て興へられた仕事をなす處から、骨折、筋肉の傷害、關節の病的状態や、その他の機能上の不調整を治癒するに最も効果の多い「血液の循環」を助くるものである。一般内科患者の場合に於いては、適度の活動は血液の循環及び食慾の増進に効果あるのみならず、何か一つの事を成遂げた時の喜びを味はしめ、腦に於ける運動神經の作用は物事に對する興味を大いに復活せしめるものである。安靜を要する病人の場合軽度の單純な作業は神經の鎮靜に效がある。又如何なる種類でも慢性の疾患を有するものにとつて、作業は有效であり、小兒科病室に於ける作業の效果に至つては無限だと云つてよい。初めて兩親から離れて入院した幼兒、醫師や看護婦が安靜にさせようとすればする程反對に騒ぐやうな子供、習慣や行爲の上で色々な面倒に陥つてゐる子供、何事にも一向興味を持たない子供、其反對に他の子供に直ぐ眞似させるやうな、餘り感心出来ない事に興味を持つてゐる子供等は何れも充分彼等の眞相の理解に基いた作業に依る指導を必要とする者である。更に不具になるべく運命づけられた子供には未來の職業に對する訓練が必要なのは云ふ迄もない事である。

前述したやうに手工的な事が最も多く用ひられる方法であるが、其中には編物、刺繡、籠其他の籐細工、木工、金屬細工、皮細工、彫刻、練物、廢物利用の細工等が普通含まれて居り、此他に音楽や、治療體操、遊戯、讀書などが用ひられてゐる。更に精神病院に於いて農業其他の勞働が廣く應用されてゐる事は周知の事である。

之等の作業をなすに當つて一つ注意せねばならない重要事は疲勞を警戒すると云ふ事であるが、左の方法に依つて之を防ぐ事が出来る。即ち、

(一) 醫藥や他の治療法の場合と同じやうに、作業の種類と分量とを適確に處方すること。

(二) 醫師・看護婦及び作業治療係員が一體となつて周到なる注意を以て觀察すること。又熱のある急性病患者には作業治療が應用出來ないのは云ふ迄もない。

今作業治療の目的を具體的に擧げて見ると、

A 心理的方面

- (一) 患者の注意と關心を喚起し増進せしめる
- (二) 新しい興味を起させる
- (三) 自己表現の機會を與へる
- (四) 感情的硬直状態を緩和せしめる
- (五) 抑壓されてゐる精力を發散せしめる
- (六) 失望せる者に望を與へる
- (七) 不健全な精神的傾向を有する者を健全な方向へ轉換せしめる
- (八) 異常性を有する者を正常化させる
- (九) 病人心理を減少せしめ、労働や活動の習慣を保存又は増進せしめる。

B 肉體的方面

- (一) 機能不能になつた關節を復舊せしめる
- (二) 徒費された神經細胞及び筋肉細胞を更新させる
- (三) 血液の供給を増加し、治癒を速かならしめる

C 社會的方面

- (一) 患者の病室・病院全體の氣分を引立たせ清新な雰圍氣を醸成す。
- (二) 團體的責任及協同を促進す。
- (三) 正常なる社會生活との接觸の機會を與ふ。

更に多くの者に職業に對する準備教育及び再教育の機會を興へるといふ事が作業治療の他の大なる目的であることは茲に繰返す迄もないことである。

整形外科に於いては種々なる機械的用具や設備に依つて肉體的再調整をしようと永く試みて來たのであるが、今や作業治療が全く之等を取つて代つた。機械的方法は人間の興味に訴ふる此新しい方法に依つて見事驅逐されてしまつたのは決して偶然の事ではない。斯く患者自身の興味に訴へつゝ彼の將來の爲の職業的再訓練迄も成就し得るといふ事は正に一石二鳥の好手段と云はねばならない。近來は作業治療の價値は非常に認められて來たのであるが、米國の全國醫師試験局が過去十年間、醫師檢定試験問題に作業治療の效果に關するものを加へてゐる事實は即ち之を實證するものである。

米國には米國作業治療協會が一九一七年に組織されたが、其目的は作業治療に關する研究と其智識の普及を促進し、作業治療の進歩向上を圖るにある。一九二九年には會員數一千に達し、此内約半數は作業治療に關する専門教育を受けた者であつた。米國にて作業治療を採用した病院の數は左の如く二二二である。

精神病院	九八
一般病院	五四
肺結核療養所	三一
整形外科病院	九
回復期靜養所	九
小兒科病院	七
其他	四

(六) 歐洲大戰に依る神經疾患に對するケース・ウォーク

以上肉體的傷痍軍人に對するケース・ウォークに就いて聊か考察したが、戰爭に依つて生活力を喪失するのは以上の如き肉體的傷病の犠牲者のみではない。近代の戰爭は其規模益々擴大され、交戦國は其國力を傾倒する事愈々高度に達するの結果、上下を問はず戦闘員が經驗する緊張や責任感が増大するのみ、遂に其重壓に耐へずして、一時的に或ひは永久的に不幸精神に異狀を呈する者を生ぜしむるのである。更に近代の科學戰、機械化戰に於いては、個々の軍人の個人的諸要素を壓倒し、或ひは之等を超えて、敵味方共に非常な傷害を蒙らすものである。此の戰爭の超個人的な偉力は亦個々の軍人に非常な緊張と不安と恐怖の念を抱かしめるやうになつたが、歐洲大戰中最も多く現はれた戰爭に依る精神的障害は俗に砲彈衝激(Shell Shock)と稱せられる處の機能性神經疾患であつた。之は心理學に於いては War Neurosis と呼ばれるものであつて、之に二種類がある。其一つは腦震盪に依る一時的疾患である。之は砲

彈や爆彈などが身邊間近かに炸裂したために、空氣の猛烈なる振動を生じ、腦を強打されたと同じく腦震盪を起し、ために其前後に腦の活動の聯絡が斷たれ、一時精神に異狀を呈するものである。併し之は全く一時的のもので、體て自然に治癒して後に何等の障害を残さないものであるから、特に茲に取上げて詳論するに及ばないものである。他の一つは感情的障害を來たすもので、前掲のものやうに空氣の振動に依る腦震盪は全然ないか、あつても實質的關係は全くないものである。歐洲大戰に於ては此の感情的機能性神經疾患の患者が非常に多數にのぼつた。砲彈衝激といふが、多くの者は最前線にも、砲彈や爆彈の炸裂を目撃し得る處にも近づいた事がないのに、之に罹つたのである。又此神經疾患に罹つた者の中には出征前から精神的健全性に於いて劣つた者もあり、精神病的傾向を有した者もあつたが、之等の傾向のない者、即ち戰爭がなかつたならば決して此種の神經疾患に罹りはしなかつたであらうと思はるゝ者が甚だ多數あつたのである。歐洲大戰に於いて生じた事が今次の日支事變に於いて必ず生ずる譯ではない。歐米諸國の將兵が罹つたからとて、我が皇軍將兵が同様に胃かされるとは信じられない。然し歐洲大戰に於いて夥しい將兵が罹つて、其後相當に研究された此種の神經疾患に就いて考察する事は、或ひは我々にとつて参考になるかも知れぬ。従つて若し此種の神經疾患のケースが無かつたり、僅少で齒牙にかける必要がないとすれば、之より幸ひな事はない譯である。

歐洲大戰中此の第二種の機能性神經疾患に罹つた者の研究に依つて明かにされた事を左に述べて見よう。先づ出征以前には何等の異狀の原因となるべき傾向や兆候を有せなかつた者が、新しく入隊した軍隊生活へ順應せんと努力や、戰時行動に對する緊張に依つて既に精神病的傾向の生起を促がし始めたのであつた。一旦此種の傾向が生ずると、普通の精神病患者と同じ症狀を呈した。即ち彼等は普通の精神病患者と同様な迷妄や幻覺や錯覺に陥つたのであ

る。更に此砲彈衝激の患者は痲痺、妄想、忘却症、遁走狂、安眠不能等に襲はれたが、何れも普通の機能性神経疾患者と同じ症状であつた。軍醫の診察に依れば、此種患者は憔悴して心配さうな表情を有し、非常に神経質で、極めて小さい音響にでも驚き恐れて跳び上つた。又或者は顔面は引きつゝてゐるが、身體はだらりとし、沈黙で憂鬱性になつた。彼等と話して見ると確かに憂鬱症の兆候が認められた。彼等自身では絶望的な病氣に取憑かれて居るとか狂氣したのだと思つてゐるやうに見られ、手足の微震が絶えず、時々痙縮を起し、適には恰かも盲、聾、啞のやうな不具的症状を呈した。

此種精神異状の説明理論としては、バビンスキーの暗示説やジャネーの精神遊離説 (Weakened Syntheses and Dissociation) などがあるが、英米の精神衛生學者は精神分析的理論を最も多く採用してゐる。然し性的要素よりも恐怖をより多く取入れるのが、此學派の近來の新しい傾向である。兎も角もケース・ウォーク的に出征前からの事情を具さに研究したのであるが、左に其研究の結果の典型的なものゝ要點を記する事にする。

精神分析學者が此種の精神的障害を研究するに際しては先づ戦争開始以前の患者の精神状態にも重點を置いたのである。即ち兵士の中には戦争が起らず、平和時の生活を續けたとしても、精神異状に陥る傾向を有するものが少なくなかつたであらう。非常な精神的重荷や緊張がないために、辛じ、異状を來さなかつた人間が相當居つたであらう。更に慢性的氣苦勞者、充分の努力をなさないために社會的落伍者のやうな境涯に落ちて行く者、或は何事も無ければやつと自活して行けるが、一寸でも變つた事があると、生活を脅かされさうで不安だと云ふ連中等が少なくなかつたであらう。之等の人々には歐洲戦争の勃發は非常な感情の昂奮を來たせられた。或者は之文で餘りに大なる衝動を受けて、到底戦争に参加するに堪へないと觀られて、出征せすに済むたのであるが、多くの者は、其傾向が餘り明瞭に認

められないで、出征してしまつたのである。戦争開始と應召との間にも、非常な強い心理的經驗をなしたのである。平和時の生活から戰闘者の生活への轉換に伴ふ不安の念を生じ、又種々なる人々からの種々なる忠告などで益々複雑な心理状態になつた。愈々軍隊生活に入ると此所では又多くの新しい經驗がなされて緊張の度を増した。出征を待つ時の心持、戰場へ向ふ途上の精神状態など何れも未だ會つて經驗した事のないものであつた。愈々戰場に着した時は既に覺悟は充分出來てゐる筈であつたが、どうかすると浮び上らうとする色々な氣持を抑へるための努力に大部分の兵士達は見事に、成功して人間の環境への順應力の偉大さを示したのであつた。戰場に於ける彼等の活動は皆超人的のものゝみであつた。然かも睡眠は碌々とらなかつたし、極めて粗食であつた。今迄の色々な新しい經驗に堪へて來た者も、此處に到つて倒れさうになつた。斯くして身體の過勞、精力の消耗と共に緊張が段々緩んで來た。然し始めの内は之を意識すると共に恥かしいと云ふ氣持になり、氣をとり直さうとしたが、それも漸次六ヶしくなつて來た。こんな精神状態になつてゐる時に砲彈や爆彈の比較的間近に於ける炸裂は實際には何等の危険はなくとも、非常な衝激を與へたのである。斯くの如き場合無意識的に恐怖心が精神的「逃避」(Escape)の状態を裝ふて表現された。即ち歐洲戦争に於いては士官の場合は、寧ろ死を撰び、兵卒の場合は戰闘力排除者となる事に依つて危地を脱せんとの心理を抱くやうになつたのである。斯くして肉體的には何等の傷害なきにも拘はらず、總ゆる種類の不具や精神異状の兆候を呈するやうになつた。彼等の或者は野戰病院に送られて他の負傷兵を目撃したり、彼等の呻き聲などを聞いて、益々自分が彼等と同様の者になつたと確信するやうになつた。而して遠く母國に後送されて直ちに快癒する者と、戦争後も永く精神異状を續けたものとの兩種があつたのである。

彼等に對するケース・ウォークは凡て精神衛生學者に依つてなされたのであるが、其中心は患者の心底深く有する

意識的無意識的不安及び恐怖心を取除くにあつた。素質的に缺陷を有する者は、全くの精神病者になつて、永く精神病院の世話を受けねばならなかつたが、多くの砲彈衝激患者は、精神分析や其他のケース・ウ・オーケの方法に依つて全く恢復したのである。

猶精神衛生的ケース・ウ・オーケの要項は既に第六章ケース・ウ・オーケの分析的研究中第十二項特殊ケース・ウ・オーケ遂行に於ける規準的過程の精神衛生的社會事業の處に記載されてあるから、茲に之を繰返さず、讀者が右を参照されんことを乞ふこととするが、一言加ふ可き事は肉體的及び精神的不具者自身に對するケース・ウ・オーケは、それと同時に必ず彼の家族のケース・ウ・オーケ的救済と共になされねばならないといふ事である。

(七) 結 語

國を擧げ國力を培しての戦争は、決して國民中何者の個人的利益のためになさるゝものでもない。又戦争に身を以て加はり、武勳を輝かせた軍人には、唯それ丈の理由で一生國民の感謝と國家の手厚き保護とが賦與さるべきである。況して戦争に依つて負傷したり、病氣に罹つて不具廢疾となつた人々に對しては、嘗に其慰問と治療とのために充分なる手段が講ぜられねばならぬのみならず、其餘生を出來る丈戦前と同じく又はそれ以上に樂しみ得るやうに取計らはる可きである。然し乍ら之は春秋に富む此等多數の青年をして、唯不具なるの故を以て、餘生を無爲に座食して送らしむるといふことを意味すべきではない。人間は獨立の人格者として生活するにあらざれば眞の幸福を味はふことが出來ないものである。故に獨立の人格者たるの最大要件として、彼等は經濟人としての地位を先づ回復せねばならない。此のために國家の總ゆる機關を用ひて彼等の生活能力の回復再建に努めねばならないのである。而して

之がためには唯一應の常識的な方法に依つて満足する事なく、個々人に適したる方法を適用すべく、科學的な研究が個々別々になされ、對策が講ぜられねばならない。特に精神的に打撃を受けて、生活能力を殺がるゝ迄に影響された人々があつた場合は、決して皮相なる豪傑主義等から放任したりするやうな事なく、親切に今日の精神醫學や精神衛生學が教ふる處を傾倒して、最も優秀なるケース・ウ・オーケをなし、出來る丈再び正常人として立ち上り得るやうになし與ふべきである。歐洲大戰後獨逸ザール・ブルツケンの戦傷兵保護委員會は戦傷兵を就職せしむることは不可能に近いと云ふ悲觀的な結論に達した。即ち戦傷者には自分で仕事を見付けさせ、失敗した場合に限り、委員會が探索の勞を執つてやるべきであつて、寧ろ戦傷者達が正しい心構へを持つやうに指導することに努む可きであるとの斷定に達したと云はれてゐるが、之即ち職業的再訓練や經濟的保護にもまして精神的ケース・ウ・オーケが如何に重要なるかを立證するものに他ならないのである。戦争に強き國民たる事は誇る可き事であるが、戦後其犠牲者に出來る丈の科學的扶助をなし、物質的に精神的に見事更生せしめ以て彼等總てをして一般國民と同じく、幸福にして有意義なる餘生を送らしめ得る國家は最も文明國としての誇りに値ひするものである。

第八章 犯罪少年の爲のケース・ウォーク實例

(一) 社會關係の調整を主とせるケース

ケース・ウォークは讀んで字の如く、被救済者を銘々個別的に救済せんとする社會事業の技術的一形態である。然しながら茲に我々が最も注意を拂ふべき一事は「個人」なるもの、本質に關してである。社會學に於ける「個人」の概念はいふまでもなく、嚴密なる意味に於いて「社會的」である。即ち社會を離れて個人を考ふる事は番觀念的に可能なるのみにして、現實に於いては斯くの如きものは決して存在するものではない。即ち「自己製の個人」(Self-made Man)なるものは存在するものではなくして、現實に存在するものは凡て之れ「社會製の個人」(Socially-made Man)のみである。即ち個人の人格者としての存在は、全く彼が社會的なるによるものである。故に社會事業に於いて被救済者の遭遇せる問題の社會診斷(Social Diagnosis)をなすに當つては個人の先天的素質及び後天的、客觀的諸要素に就いて充分の研究を熱心になすものであるが、之等にも増して社會診斷に於いてケース・ウォーカーが關心を拂ふのは、個人の社會生活に於ける他人との相互關係である。此の他人との社會的相互關係は、個人先天的及び後天的既有的諸要素に制約され、各々異なる現象を呈するは言ふまでもないのであるが、我々は往々にして此の社會關係其のものが個人に最も大なる影響を與ふるの事實を忘るゝの危険を取てなすものである。ケース・ウォークに於いて被救済者の肉體的、心理的、經濟的狀態を個別的に研究するは無論のことであり、又必要なることであるが、我々は常に綜合的、全體的立場を忘れてはならないのである。社會生活を社會關係の立場より眺め、個人の問題を綜合的全體的立場より

研究せざれば、被救済者の問題の診斷が如何にするも不可能なる場合が少なからずあるのである。左に掲ぐるは個人の問題が社會關係の立場より觀察して始めて其の治療を可能ならしめられたるもの、好適例なりと思惟し讀者の参考に供せんとするものである。

ステイシア・アンドルウス(姉) 十八歳
 スタンレー・アンドルウス(弟) 十七歳
 出生地 北米合衆國
 兩親國籍 ポーランド

一 緒 言

アンドルウス一家に關して本所(ジャッヂ・ペーカー・ファウンデーション)が始めて相談を受けたのはステイシアに就いてのみであつたが、一家全體が研究を要する一つの家庭劇を展開しつゝあるといふことが間もなく判明した。母親は最初附近のセツルメントのポーランド人の少女係に相談した。即ち娘のステイシアが神經過敏で興奮し易く、妙な行動さへ往々なすので、氣が少々變なるに相違ない。故に心痛の餘り又下の子供等を彼女に委せて家に残して置くことが出来ないと云つて相談に赴いたのであつた。

ステイシアは本所員が母に面會した時は既に一家と別居して近所に部屋借りをして暮して居た。本所ではいつもの如く此問題の少女を分析して、その性格描寫をせねばならぬと思つた。それから暫く後に、今度はステイシアに自身逢つてみてくれと頼まれた。彼の職業的才能は怪しいもので此の頃怠ける傾向が目立つて來た。最近彼女に面會した

セツルメントの職業係は少し低能なのではないかと云つてゐる。

一九四

二 家 庭

(家族に関する報告は家族の數人の口から直接聞いたものである。更に訪問員等が實際に見て了解した一家の様子と兩親及び子供についての考へを知らせてくれたのである。又之等以外の事は兩親がまた若くて故國ポーランドに居た頃から彼等をよく知つてゐる親戚の者から聞いたものである。)

一、父(年齢 四十八歳)

ポーランド中部の小さな町で成長した。地方の事だから教育も受ける事はうけたが、さう大したものではない。それから家具商の見習となり一八九九年に妻子を連れ渡米するまで、その仕事に従事し現今に至つてゐる。家具の修繕を頼まれた場合には自分の小仕事場に持つて来て仕事をした。小男で、か弱さうに見える。身長五呎二吋。

瘠せてゐて金切聲で話す。生れつきの臀部の畸形で片足は他方より一吋程短い。だから特製の靴をはいてゐるが妙な歩き方をする。此の二三年來段々病弱となり時々喘息の發作がある。彼は理智的に見える。話振りははつきりしてゐて筋道も通つてゐる。新聞はポーランド語のと英語のと兩方を讀み、雑誌も見るが書籍は讀まない。一定の人生觀は持つてゐない。宗教にも興味が無い。どんな事でもその場になつてから考へるといふ風である。親類の者は、彼の若い頃は音楽を愛して凡て美しい物が好きだつたと云つて居る。家族の年少の者共が、名前は英語でつけた方が便利だと云ふので、それには賛成したが、アメリカの公民新聞を圖書館から借り出して讀むといふ迄の興味は持つてゐない。それにはアメリカで如何したら住み良いかなどと云ふ記事がのつてゐるのだが。

家族の者は父を神経過敏で激し易く、自分の健康状態を非常に氣にする人だと思つてゐる。彼はよく氣分が悪いと

愚痴を云ふ。それで病院か施療所に行く様にと云はれるのだが、醫師の指圖に少しも従はうとしない。訪問員の報告によると彼は勤勉で不具の體にも拘らず出来る限り働いてゐると云ふ事であつたが、家族の語るところによると、彼は一ヶ所に落付いて商賣をやれない性分である。自分でも貧困を非常に苦しめてゐる事は明かで、「働き乍ら死ぬのが我身の果てさ」と口癖の様に云ふ。家庭の紛擾について話す時には非常に興奮するが他人と他の事を喋つてゐる時には全く平靜である。親戚の者は「彼はいつでも氣嫌が悪くて一緒に生活し難い。けちで妻の着物を買ふ事にまで自分の權力を振り廻す」と云つてゐる。

二、父の家族

何れも故國で職人か店屋をやつてゐて相當教育もあり、怠惰癖のある者や、精神變質者は一人もゐない。只祖父は時々大酒を呑んで亂暴をする。父の兄弟のうち二人は渡米して成功してゐる。そのうち一人は殊に立派にやつてゐる。

二人共今バルティモアにゐる。

三、母(年齢 四十七歳)

父と同郷、極く低い教育しか受けず、廿四歳で結婚する迄は家で母を助けて大世帯の世話をしてゐた。ポーランド語でなら讀み書きが出来るが、英語は學ぶ暇が無かつたので必要な會話位しか出来ない。

脊は低い方だ。瘠型。過勞で衰弱してゐる様に見える。表情に富んだ、大きな目と、ちよつと垢抜けのした身振りが一番目立つ。頭痛持ちで、月經時には疲勞を感じて目まひを起すのが癖である。診断によれば軽い慢性の關節炎で、又消化器が下垂してゐるので、特製のコルセットが必要である。見た所小綺麗で、子供の將來に相當野心を持つてゐる昔風の女だが、アメリカ流のやり方、少しも理解出来ぬ。人と話す時に昔風の理屈をよく挿しはさむ。お喋りであ

るが、感恩の念強く、極く小さい事でも氣にする。音楽を非常に好んでゐる。自分の教育が足りないのをひどく氣に病んでゐる。住居はどこかも清潔でキッチンとしてゐる。渡米後、時には洋服屋の受取り仕事をしたりしてひどく働いた。但しその大部分は自宅でやつたのである。今では家庭内のいざこざに疲れ切つて、すつかり元氣が無くなつたやうに見える。

四、母の家族

母の兄弟姉妹のうち四家族はアメリカに移住し、フィラデルフィア附近で相當に暮してゐる。何れも職人か商賣人である。祖父母及びそれ以外のポーランドに残つてゐる者も、行爲、精神状態いづれも全く尋常との事である。

五、子 女

A ローザ

年齢廿二歳、どつちかと云へば餘り見榮えのしない娘である。脊が低く肥つてゐる。粗野な、しかし先づ普通の體つき、齒の手入れが悪い。十五歳で小學校を終へ、仕事についたが勤勉に女子商業學校の夜學に通ひ、そこを卒業した。熱心に働くので事務員から速記者に上げられた。仕事には忠實で幾度も昇給させられた。報告によると性質は溫和で呑氣で、ある人は少しボンヤリだとさへ云ふ。近所の人は彼女は家の中を整頓しようとしないと同様に、自分の身なりも構はないのだと云つてゐる。働きに出るやうになつて以後すつと儲けた金は皆両親に渡してゐる。その中から母が彼女の小遣と毎週のピアノの稽古の授業料を彼女に拂ひ戻すのである。

B ステーション(年齢十八歳六ヶ月)

1 發育上の經歷—歩行、言語等發育は普通。痙攣、重病 重大なる傷害等の經驗なし。

2 身體検査—脊は低いが榮養可良。小綺麗で、粗末だがよい好みの衣服を着て居るので人目に立つ方である。顔は美しい。表情は敏捷で明るい。態度は物靜かで親しみ深い。

體重百封度、身長五呎、胸はよく發達し、年の割には強い方、姿勢よし、性器の構造異常なし。粘膜の色可良。齒は以前には數本むし齒があつたが今は填めてある。他に變質點なし。筋反應正常、震顫なし。聽力正常。視力右20/40 左20/60、目の反應及び運動正常。鼻咽喉狀態良。心臟正常。ぼくろなし。極く稀に頭痛す。

3 精神検査

a 心理試験の結果(如何なる仕事に彼女に最も適當し、興味を持てるかを知らうと本所では特に熱心に調べた。) 一般的才能良好、知能指數九十六。聽覺に依る記憶正常。視覺に依る記憶良好。精神反應遲し。精神集注力弱し。運動統整よし。語學の才あり。繪畫の材料を巧く用ひる。具體的事物を扱ふ事に巧みなるも、計算は下手で遅い。然し事務的才能の試験では可成正確なる成績を示した。

b 精神的平衡—判斷、意思、感情に於て變質的徴候なし。自己指向力及洞察力良、會話には筋道が立つてゐる。
c 性格—幾度も目にとまつたのは、快活さと敏感さ及自分の一身上の問題を賢明に扱ふ事である。普通の程度に内省的、野心的、淡白、善良な生活標準と理想を持つ。たしなみあり。陳述せる事より判斷するに敏感な感受性と審美眼を有す。

母親の云ふ所では、彼女は家では始終いらくして皮肉許り云ひ、兄弟には意地悪、姉のローザを嫉んでゐる。

4 性癖、友人、興味、學歷、職業上の經歷
報告によつて觀ると、友人は普通につくる。幼時にも學校友達とはごく普通につき合つた。近頃はよい友達が

出来た。但し異性の友達には少しも興味が無い。讀書は殊に戀物語、冒險物語等を好む。幼時にはお伽噺を澤山讀んだ。映畫も好きである。近頃相互の親睦をはかる事を目的とする一少女クラブに入會した。食事、睡眠異状なし。數度の轉宅に伴ひ諸所の小學校に在學、その爲に少くとも一年は遅れてゐる。十四歳と何ヶ月かで小學校卒業。卒業前に休暇には何時でも勞働した。卒業すると直ぐ就職した。數年間夜間女學校に行き商科を勉強したが卒業する迄には行かなかつた。働くのは何時でも工場で、最近四年間に四ヶ所に働かれた。そのうち一ヶ所では不況の爲解雇されたのだが、最近再び其工場に歸る様にと頼まれた。怠けたり勝手氣儘する事は減多にな
い。

C スタンレー(年齢十七歳一ヶ月)

1 發育上の經歷—どの點でも正常。

2 身體検査—年の割に小さい。然し體格普通。顔つき快活、生き／＼した表情。動作敏捷。體重百封度。身長五呎一吋。筋力—年齢に比例した體の大きさからみると餘り強くない。胸部よく發達。皮膚の色よし。一本のむし齒以外齒は良好。心臟正常。聽力、視力普通の試験によれば良好。咽喉状態よし。鼻腔膜は一部分の障害の爲偏つてゐる。腕に異常なし。包莖なし。頭の形可成よし。局部に成人の如く濃色ならざる薄き毛髮多く生ず。

3 精神検査

a 心理的試験の結果

(子供らしい態度で試験をうけた。おど／＼して自信が無い事を示し、注意集中良好ならず。よく話し、快活である。時には身振りて話を補つた。)

普通以下の知能程度である。I・Q・八十五。

聽覺からの記憶は悪いが、見て覚えるのは少しはよい。精神年齢十三歳、812記憶力—聽覺によるものよりも視覺による方良好。無意義事項の記憶力良好。有意義事項の場合は劣悪。繪畫、語學兩方共に對する統覺力貧弱。語學的才能總體的に貧弱。常識的知識の所有相當可良。具體的題材に關しては計畫的にやるが機械的事物を扱ふのは全く下手である。

b 精神的平衡

すぐ狼狽して平衡を保つ能はず。自己中心的、神經質、稍燥狂症、子供じみた恐怖症、うつり氣。然し以上のいづれも過度のものではない。極く軽度の精神病的性格を有する者と云へやう。然し乍ら之等の不定性は青春期の一時的特徴だと思はれる。

c 性格

話し好き。勝氣。著しき不成熟。男の子に有り勝ちな無責任さ。劇的才能あり。器用。人に興味を持たれ又好かれる。報告によれば、暗示を受け易く樂天的。然しすぐ氣をくじかれる。正直である。

4 性癖、友人、興味を持てるもの、學歷、職業上の經歷—スタンレーは減多に煙草を吸はぬ。以前にはコーヒーをのんだが、成育の妨害となるを恐れ、喫むのをやめた。性的悪癖なし。以前にはヴァイオリンを習つてゐたが弟に追越されたのでやめた。然し鬼に角彼は音楽好きである。たまに映畫を見に行く。特別に興味を持てるものなし。讀書に少しもない。以前は學校友達と遊んでゐたが近頃はいつも數人の札つきの不良少年とつき合つてゐる。この中の一人は可成りの罪状を持つてゐる。彼は一緒に夜家を明けて公園で眠つた事があつた。

學校の成績は中位で、小學校を卒業した。落第して同じ學年を二年やつたが之は家が餘りに數回に亘る移轉をした故かも知れない。十六歳の時初めて働きに出た。三度仕事を變へたが三度共種々なる理由で永續しなかつた。この八ヶ月間は藥屋で働いてゐたが働く時間が非常に長いので嫌になり最近やめた。

D ウラジミール(年齢十二歳)

體は小さい。健康。人を引つける容姿。殊に目が大きくて表情に富んでゐる。報告によると、負けず嫌ひで多辯で落付きがない。學校の勉強は好む。成績は可成りよい。音樂の才相當にあり。もう數年間ヴァイオリンを習つてゐる之はポストン・シンフォニック・オーケストラの部員たる有名な樂手に特別安い授業料で教へて貰つてゐるのであるが、彼は眞面目に練習し熱心である。彼は感情家で教養上の缺陷の爲に惡ずれてゐる。音樂レッスンの授業料を得る爲に登校前及休日に働く。

三 家 庭

アンドルウス氏は妻とローザを連れて一九〇〇年に渡米して以來ずっと同じ職業に従事してゐる。屋内裝飾と家具修繕をなす爲の小さな仕事場を持つてゐる。商賣に向きさうな土地をねらつて幾度も引越した。住居は仕事場とは別になつてゐたが、何時も同じ様な特色を持つてゐた。即ち部屋は四つか五つあり、附近は稍々人口稠密な借家區域である。家の内部は何時も清潔で、キッチンと片付いてゐる。この頃は父親の商賣は可成り巧く行つてゐた。

それから一九一一年にバルティモアに引越し、前より大きな工場を開いたが全く失敗して、家族は外部からの補助を受けねばならなくなつた。間もなくポストンに歸り、そこで以前より小規模にやり出した。然し以後ずっと商賣は思はしくなく、儲けが一週十五弗より上る事はないので、公共團體からの補助を時々受けた。家族はその救恤金無し

でやつて行かうとしたが駄目であつた。二三度新しい地區へ引越したが生活状態は悪化する許りであつた。

こゝ五年間は荒廢した木造家屋の二階に住んでゐる。部屋は四ツ。湯殿もあるが皆小綺麗にしてある。ガラッタが所狭き迄にあるに係らず、全體に修繕が行届きで、建築など極めて粗末である。客間は夜は寢室になるのである。そこにピアノとヴァイオリンとベンジローンが置いてあり、壁には一家の寫眞がかけてある。

大きい子供達が働きに出て儲ける金は家に提供するので、經濟状態は良い譯である。然し収入は何時も相當な生活をするには足りない。とはいつても音樂の爲に相當多額の金が使はれてゐる。上述の樂器は皆買ったものだし、ステーション以外の子供は皆音樂の教師についてゐる。

四 家 族 生 活

一、母親の陳述(ポーランド語を話す所員の聽取したもの)

一家は何時でも貧困といふ程でもなかつたが、渡米後は困苦を嘗めた。然し大抵今よりは生活は樂であり、自分は今ほど過度の疲労から健康を損ねてはゐなかつた。(これを證明する爲に、彼女は十一年前の自分の寫眞を出して見せた)今は只子供だけを楽しみにして生きてゐる。貧困なので子供達が可愛想で、彼等が時に失望する如き事があつても非難しない。望んでゐるのは子供がもつと樂に暮せる様になり、自分より高い教育を受ける事である。教育がなくではどんなに何にも出来ないかを知つてゐる。長女のローザは厄介をかけた事が一度もない。立派な娘で、まるで「天の使」である。希望も持つて居り、両親にはよく仕へる。

ステーションは姉とはまるで變つた娘である。十四歳の頃までは大して心配もさせなかつたが、その頃から家での態度が非常に悪くなつた。皮肉ばかり云つて、家族全體に對して卑劣な事をする。時には他の子供達が話しかけても返

事もしない。部屋を出る時には必ず戸をひどい音をたて、閉める。父親に對する態度が最も悪い。彼女自身の考へでは父親がステーションを退學させて働かせるのが原因らしい。然し一家には金が入用だったのである。ステーションは晝間の學校に行きたがつたのだが、父親が許してくれなかつたので、それ以來彼に恨みを持つやうになつた。父親を嫌つてゐる事をわざと見せつける様にする。父が向ふから來るのを見ると何時でも「もうやつて來たツ」と云ふ。それにいつも母親が自分以外の子供、特にローザを自分より可愛がつてゐると云ふ。無論斯様な事はないのであるが、ローザはステーションよりもよい仕事を有し、而も彼女の仕事は店のものであつたに引かへ、ステーションのは工場の働きであり、且ローザより地位の低い娘達と交際しなければならなかつたので嫉んでゐるのである。又ローザがピアノを買つて稽古をしてゐたせいもある。ピアノの練習の音がうるさくて仕方が無いと云ふ。ローザはステーションにピアノを教へてやらうとしたのだが彼女は拒絶した。

ステーションが父親に邪見にするので、彼はステーションと話をする事さへ避けるやうになつた。一度父は腹を立て、氣絶した事さへある。ステーションは又子供の事にうるさく口を出す様になつた。「これはかう、あれはあゝでなきやならない」など、一々細かい事で、兎や角云ふので、到々子供達と彼女と共に食事をさせる事や、弟達に任せて留守番をさせる事が心配になつて來た。こんな風ではきつと弟達にろくな結果が無いたらうと思つたからである。ステーションは家族の皆を嫌つて、家族も皆彼女を怖れてゐる。父親に對する態度が餘りひどいので、彼はステーションが家に居る時には歸つて來ない。

ステーションはよい友達とつきあつてゐるし、勤勉である。ある工場では給料を増してもらつた。時には自分で嫌な仕事であると知りつゝ、仕事が無いより良いと思つて働いた事もあつた。母はステーションと一緒に暮して何等面倒を

感じない。而して姉ローザの如くに善い機會の與へられん事を望んでゐる。ステーションは何時も身綺麗にしてゐる。好んで入浴を度々なす。子供等の中で最も家の中を清潔に又整頓する事に興味を有する。

息子達に就いては何の心配もない。只スタンレーが近頃ザレ氣になる様な事をしたが、家にあつては極くよい子供である。時に氣むづかしくなるが、直ぐ氣嫌をなほす。ウラジミールは神經質であるが性質は少しも悪くない。彼の音楽教師はきつと立派な音楽家になるだらうと云つて、特別に授業料も安くしてくれて居る。子供達は皆音楽の才がある。自分の兄弟には一人立派な音楽家がある。自分も音楽が好きである。父も同様である。

夫は金を澤山儲けないが出来るだけ働いてくれる。子供達には正しい事をしてもらひたいと願つてゐる。子供達がまだ小さかつた時には家には何も心配事がなかつた。

二、ステーションの陳述

私は家で幸福を感じた事がない。どうして父がこんなに嫌ひなのか自分でも分らない。時には父の顔を見た丈でもむつとする事がある。仕事から歸つて來て父がテーブルの所に座つてゐるのを見ると、いつでも父と一つ家に暮す事はとてもやりきれないと思ふ。父に對して斯くの如き氣持を持つやうになつたのは、彼が學校に行く事を許してくれず、働きに出された時からと思ふ。(しかし後記の事實を見よ)

父は家の内の王であり度いのである。家中を自分の思ふがまゝにしたいのである。私はそれは彼が失敗者だからだと思ふ。そして他の人をも失敗者にさせたいのだ。だから自分以外の者が自分より偉くなるのが嫌なのだ。何とかもう少しましにやれた筈である。彼は相當物判りもよいし、教育も受けてゐる。成功しかけた時にも彼は満足せず、もつとやらうとした。しかし失敗して損をして以來、さつぱり野心がなくなつて、ごく小さい仕事場で満足し、足

りない處は救恤金でやつて行こうとした。勿論すつかり金がなくなつた時には救恤金を貰ふ外なかつたのである。それから後と云ふものは、彼は救恤金を當然受くる権利ありとなし、自分で少しも働かうとしなくなつた。もし彼が精出しさへすれば、うまく行つてゐたに相違ないのである。(以上を彼女は非常に苦々しさうに話した。)

夜分には父はテーブルの前に腰かけて、ポーランドの新聞を母に読んで聞かせる。そしてもし子供の誰かゞ記事について口をはさむと、「だまつて聞いてゐろ」と言ふ。私は家族の者のやうに父の言ふなりになる事はとても出来なかつた。ローザは家内の女王であるが、今日の日まで何でも言はれた通りにしてゐる。働いて儲けた金はすつかり家に持つて歸る。夜疲れて居り、且欲しない時も言ひつけられるまゝに兎に角ピアノの練習をする。ローザは實際よい娘だ。しかし餘りおとなしいので、それが癢にさわつて、反つて私は反抗的になるのだ。母は家に於いてなるべく風波の立たぬやうにと、父が何を言はうと黙つてゐる。(小さい時にあつた事で非常に口惜しいと思ひ、今でも覚えてゐる一番古い記憶は何であるかと尋ねると、彼女は次の如く答へた。)五才位の時の事である。私は母が買物に行くのに御伴をするのが好きだつた。キャンディーを買つてくれたり、何かおごつてくれたりするからである。ある時、大變お行儀がよかつたので母が何處かに連れて行こうと、約束した事があつたが、その時、何等特別の理由もないのに父が行つてはならぬと言つた。そして私が落膽して泣き出すと顧客のゐる前で私を打つた。これ以來私は父をさけるやうになつた。そして打たれさうになると、私はいつも部屋に匿れ、鍵をかけてしまつた。すると父はひどく怒るのだつた。又、私は家族と異つた趣味を持つてゐた。私は家の中で手を振つて踊り廻るのが大好きだつたが、父はそれを見ると腹を立てるのだつた。父には舞臺に立つてゐる姉妹があつて、私がそれにそつくりだから見るのも嫌だといふのである。家の中で歌つたりダンスをしたりすると、そんな事をする、ろくな者にはならないと言つて、父に禁ぜられ

るのである。私は今では自分も時々無茶をしたと氣がついてゐる。これは父に似てゐるのだ。しかし私は父の私に對する扱ひ方が間違つてゐたのだと確かに言へると思ふ。父は酒は飲まないが身什舞が悪いので、私はそれが嫌なのだ。卑猥な事は言はないが、ポーランド語で随分ひどい悪態をつく。私は家庭には愛が必要だと思ふのに、彼はそんな事は信じようと思はない。私は音楽は好きだが、他の兄弟達が皆やつてゐるやうに音楽の稽古はした事がない。

學校の成績はよくもなく悪くもなかつた。好きだつたものは圖書、體操、劇、で何れも自分で才があるかどうかは知らぬが大變興味を感じた。何かして體を動かしてゐないと物足りない氣がする。家でちつとしてゐるのは辛い。兄弟が音楽の稽古をしたり喧嘩をしたりして非常に騒しいので、時々氣が狂ひさうになるからである。(家庭外の生活からどんな影響を受けてゐるかについて彼女はかう答へた。)私は大して影響を受けてゐないと思ふ。私は、英雄崇拜家ではなかつた。しかし尊敬する教師が一人あつた。人よりも讀書によつて受けた影響の方が大きい。八歳の時に、圖書館の閲覽券がほしかつたので嘘の年齢を言つて貰つた事があつたのを覚えてゐる。そしてその時の今でも持つてゐる。お伽話を澤山読んで、自分をその中の女王にして色んな空想を描いた。十二歳位から戀物語が好きになつて餘り澤山讀んだので飽いてしまつた位だ。今では神秘的な話が好きだ。しかしもつと役に立つ本や、流行の小説も讀んだ。近年は空想を描く事もないし、自分をロマンスの主人公にしてみるやうな事もない。私は悪い友達から影響を受けたとは思はない。性的な事については、私は自分の態度を恥かしく思つてゐる。と言ふのは、私は自分が此問題について餘りに無知で、取りすましてゐるやうに思はれないかとそれが氣になつてゐるからである。正直に言へば私はこんな事には少しも興味を持つ事がない。學校で友達と話してゐるのを聞いた事があるが少しも理解出来なかつた。十五歳の時に既婚の婦人に少し性に關する事を尋ねた。しかしその婦人が賢明な方法で説明してくれたので私は

特別に何とも思はなかつた。工場で働いてゐた時にも興味がなかつたので、そんな話には乗らうともしなかつた。最近にも紙片に卑猥な事を書いて廻して來た事があつたが、私は開きもせずそのまゝ次の人に渡してしまつた。

私は常に同性の友を持つてゐたが、異性の友も五、六人はある。今は六人組の仲好しの娘たちと交際してゐるが、彼女達は時たま何かをやつて異性の友達を招待する。私が會員になつてゐるセツルメントのクラブでは討論會があつて私は討論が大好きである。時にはダンスや劇もする。他の家に招かれて行くのは大好きだが、餘り度々は行かない。(かう言つた時に、彼女はどきまぎした。そしてどうしたのかと聞かれると恥かしさうな顔をして言つた。)これはごく些細な事なのだが、私が心苦しく感じる事の故である。つまり衣服についての氣苦勞なのだ。勿論私は綺麗な衣裳を身につけるのが好きだし、ダンスやパーティに行くには相當な衣裳が必要だ。私は下宿料を拂つてその上、家にいくらか持つて歸つて、その残りでは、とても自分が望んでゐるものが買へない事は知つてゐるのである。私は工場でもいつもさせられる手仕事はどうしても好きになれない。機械の仕事ですればもつと給料が貰へるのだが、私はそれが下らない事に思へて仕方がない。それは「頭を少しも使はないでもできて、私自身が機械になつてしまふのと同じ事だから」である。私の受けた商科の素養は大したものではないので事務員にさへなれない位だ。

私は家の中がうまく行かないのが非常に心配で、時には全く悲觀してしまふ事もある。今では家へは母に逢ひに歸るが、父の爲に歸るのではない。時に父の仕事場の前を通ると、中に入つて「一緒に暮せなくともせめて仲好くやつて行きませう」と言ひたいやうな氣持になるが、實際に云ふことは出来ない。私は父の顔を見る丈でもぞつとする程嫌なのである。私は今は家に居た時より幸福である。しかしまだ不満な事がある。それは主に金の苦勞と、今の仕事が嫌な事である。

三、スタンレイの陳述

スタンレイは近頃失業したので、家で心配の種にされてゐる。彼は小學校を一年前に卒業した。學校では出来る方ではなく、二度落第した。それから働きに出た。はじめは使ひ屋になつたが、自分ではその仕事が嫌ひだつた。次に續いて二度變つた仕事をしたが、二度共永續しなかつた。最近の仕事は近所の藥屋の小僧で、使ひをしたり店で働いたりするのが役目だつた。暫くしてソーダ・ファウンテンの方をやらされて八ヶ月續いた。今ではやめて惜しい事をしたと思つてゐるが、何故やめたかと言へば、そこでは何もかもごつちやになつて譯が分らなくなつたからだ。彼は語つた。「あたりは騒々しくて顧客は店に入つてくるなり大聲で私を呼びつける。そして色々な種類の飲物を言ひ付けて、若し私が注文を間違へようものなら、「馬鹿野郎」の連發だ。又、金を拂はずに出て行くこととする客もあり、そんな人にかゝはつてゐると、片方では勘定臺の煙草やその他の色々なものを持ち逃げするといふ有様だ。こんな調子なので私は氣が狂ひそうになつたのだ」。彼は五、六回、釣錢を間違へた事がある。又、店主のS氏が自分で時々間違へたのを、スタンレイの責任だと責めた事があつた。然し彼は一仙だつて盗みはしないと云ひはつたのであつた。

仕事の上でまた辛い事があつた。S氏は神經過敏で、スタンレイにもさうならせたのである。此冬、近所にホールディング・アップが出たのでS氏はスタンレイをも家に歸さず自分と一緒に居させて店に居させた。スタンレイはかう言つてゐる。「こんな風なので、私もすつかりおち氣がついて小路へ來る度にぶる／＼ふるへた。眠つてゐても急に目が覺めて思はず「そこにあるのは誰だ!」と言つた。それで私は終に耳の後の所が痛くて眠れなくなつてしまつた。加之店には鼠が澤山居て、S氏はそれを怖がつて居たので地下室の用は皆私に命じた。地下室では鼠が箱から飛び出して來て私を驚かせるのであつたが一度など私に飛びついた事さへあつた。」

近頃、彼はある男の友達と一緒に家出をした。その譯は彼が失業したので家族の者達が家では何時も彼に邪見に馬鹿にして、ポーランド語で彼を罵つたりしたからである。家族は皆同様にした。母は叱るし、父は彼の失業した事許り口にする。しかし一番ひどいのは一番上の姉のローザであった。「彼女は實に生意氣だ。私(スタンレー)が仕事を得て金を持って歸れるやうになるまで何も食べさせてはいけない」と母に言ふのだつた。彼は仕事を見付けずしてどうして金を得られるか見當か付かなかつたし、餘りに仕事でこたついたので、つひ先頃には、大切な自分のパンジーを五弗で賣つて其の中の三弗を母に渡したのである。

彼は姉のステーションの様子に父と一緒に暮し難い等と思つた事はない。父は可成意地悪だ。彼はそれは父に澤山儲けがないからだと思つてゐる。一度彼は鍵をぶっつけられて怪我をした事がある。父が寝に行く時には、時々「死にさうだ。死にさうだ」と大聲で言ひ續けるので家中が迷惑する事がある。子供等が言ひ付け通りにさつさつとしない時には父はテーブルの上を拳固でどんく叩いたり、ストーヴを火掻き棒で打つたりする。

彼と一緒に家出をした子供は手癖が悪かつた。スタンレーは此子供が一度少年審判所にやられた事を知つてゐる。スタンレーは彼と此約一年程交際してゐるが、さう深くはつき合つてゐない。近頃一度、スタンレーが此友達を家に連れて歸つて一晩泊めてやつたので、ローザが嫌がつて騒ぎ立てた事がある。スタンレーは他の一人か二人の不良少年とつき合つてゐる。其の時分一緒だつたのは悪い友達だつたと今では彼も氣が付いてゐる。其の中の一人はまだ十五歳だが賭博常習犯で、今は窃盜罪を犯して八百弗の保釋金で歸宅を許されてゐる。何時も店にやつて来てわざとスタンレーをいぢめるのは此の連中なのだ。おそらく此の手段によつて彼に仕事をやめさせて、自分達の仲間と一緒に盗みに行くやうにさせる積りなのだらう。近頃彼は此の連中と親しくしてゐる。しかし一緒に盗みはしない。今ではどんなに彼等の

してゐる事が悪い事であるかが判り、それをやめさせやうとさへ努力してゐる。

従業員會議の決議事項

A、ステーション

一、問題—彼女の家庭における特異な行動の故に母が彼女の精神が正常なるかと怪しむに至れる事。

二、肉體的狀態—脊低し。榮養可良。視力稍不完全。快活。表情に富む。容姿洗練さる。

三、精神的狀態

a 才能—一般的才能可良。運動神經の統制可良。具體的事物に關する計畫に長ず。仕事は遅いが注意深くなす。

b 精神的平衡—精神的不平衡の徴候なし。

c 性格—人に好感を與へる。理由は綺麗好き及び友情。自分の問題を扱ふのに賢明で批判的である。向上心あり
淡泊に見ゆ。美に對して鋭い眼識を有す。報告によれば家庭では非常におちつき無くすぐ喧嘩をする。

四、背 景

a 遺傳—父は神經質、憂鬱症の傾向あり。父の家族に異常のものなし。母及び其の家族皆正常。

b 發育—正常。

c 家庭の狀態—貧困。温かさといふものが全然無い。収入は一家を支ふるに不足。家内に紛擾多し。父は短氣にして氣むづかしく家族全體に對して壓制的。

d 精神狀態の發達—父の存在の故と家庭生活の無味乾燥なるに不正と不満との感を抱くに至り、非常に反抗的になつてゐる。

五、豫後及び提議—ステーション自身の問題に對する認識は正常と思はる。家を離れ、友達と部屋借りをして問題を解決しようとしたのは賢明な方法である。殊に母を訪問する事は彼女の賢明なるを表はしてゐる。彼女の特徴から見ると豫後は良好と思はれる。尤も職業上の調整が考慮されねばならぬ。現在の仕事は彼女の才能に合致してゐず、自分でも興味を持つて居ないからである。商科の素養は不完全であるが、事務員位なら出来る筈である。手仕事は習ふ機会さへあれば、きつと上達するだらうと思はれる程才能がある。専門家に視力検査をして貰ふ必要がある。本所員が姉の代りになつて前述の事凡てを指圖し、彼女の改善を計る爲に力をかす事にさせる。

B、スタンレー

- 一、問題—職業に關する指導。及近來あらはれて來た不良的傾向—外泊、悪友との交際等—を防止する事。
- 二、肉體的状態—身長非常に低し。榮養可良。非常に悪い癖一本有り。鼻隔膜偏向。容貌感じ良。表情に富む。
- 三、精神的状態

a 才能—一般的才能低し。學校成績悪し。

b 精神的平衡—軽度の精神病的性格。全體的に精神統制力に乏し。

c 性格—未成熟。多辯。自己中心的。然し愛すべき性質。暗示を受け易し。

四、背景

a 遺傳—ステーションの同項参照

b 發育—正常

c 家庭状態—ステーションの同項参照

d 交友—昔も今も悪友と交際す。

e 職業—最近失業。従つて家では愚痴をいはるゝを嫌ひ外出勝ち。

五、豫後及び提議—斯くの如き家庭生活の故に堅忍不拔の精神の發達する機会がない。家内が平靜ならばもつと異つてゐた筈である。他の都市に有る様な労働少年のための「よき家」があればスタンレーは其處に入るに最も適した者だらう。特に彼に適せる職業が何か未だ判明せぬので、最近まで就いてゐた職業にもう一度就かせるのがよい。癖を治療し専門家に鼻の診察をして貰ふ要あり。

その後の経過

此の一家の問題を取扱ひ始めて以來三年半の間に、住居は前と同じであるが、家族の状態は少しづつ悪化して來た。父の健康は衰へて、一ヶ月或はそれ以上も働けないことも度々あつた。貧困がひどくなるので、父母共に益々元氣がなくなつた。度々救恤金を貰はねばならぬ。一家の様子を知れる人が見た所によると、父が金を儲けて歸らなくなつて以來、母は容赦しなくなつた。夫婦喧嘩は前より頻繁にするが、その時には今では母親の方が鼻息が荒い。實際最近父は救恤施設に助力を求めにゆき、もう家にゐるに忍びぬ。スタンレーは悪口をいふし、妻は金を得て歸らねばしめだして終ふと脅かすところばした。

家は誰れも顧みないので、今では殆んど無秩序の状態で不潔である。母は近來行爲稍々過誤的になり、益々愚痴つぽくなつてゐる。最近訪問員が訪れた時には、彼女は部屋の中を歩き廻つて何の目的もなしに、いろんなものを彼方へ置いたり、此方へ置いたりしてゐた。家内は汚れ、床には紙片や小切れが散亂し、湯殿も汚れてゐて、もう二度と使はないかと思はれる程であり、ベットには汚れきつたカヴァーが被せてあるといつた調子である。母はステーション

が家に居なくなつて以來誰も家内を整頓する者がないので語つた。カーテンはもう長い間洗濯せずに掛けてある。こんなことの面倒を見るのは何時もステーションであつた。母一人ではいくらやつても追付かないのである。一定の収入等といふものは今は少しもない。

ローザは今でも忠實に仕事に出てゐるが、年が長じたので以前よりは着物に餘計に金が要る。殊に近頃婚約したので益々餘計要る。彼女は矢張兩親にはよく仕へる。兩親に孝行なのは家中で彼女丈である。

ステーションは矢張家から離れて部屋借りをしてゐて、私達が最初彼女を知つた時と同じ友達と交際してゐる。セツルメントの職員の仕事で印刷屋の事務員になつたが、前の工場の仕事よりは興味を以つて八ヶ月務めた。此の間中、自活して貯金した上に母に定つて金を渡してゐた。彼女が勤めてゐた部が廢止されたので暫くは貯金で生活してゐたが、貯金は段々残り少くなり、他に職業が見當らないので、セツルメントの職員のみスAの提言に嫌々ながらも従ふことにした。ミスAとは彼女が此の頃よく話しに行つて相談に乗つて貰ふ人である。郊外の或る家に家政の手助けに行くことになつたのである。ステーションは行つてからといふものは其處に長く居付いて家政を悉く學ぶにはよいことだと悟つたと後に云つた。それに、そこで得た報酬は毎週必ず家に送金する數弗の外は皆貯金になつた。六ヶ月其處に居る中に、市内の女學校に行つて、やりかけの商科を卒業しては如何との問題が出た。併し本所員と相談の結果、今から普通の女學校に戻つて年下の生徒と一緒に勉強するのは氣が進まないからとの彼女のいひ分を容れることになつた。その後、事務員の口が見付かり、彼女は再び市に歸つて友達と生活することゝなつた。而して以前に勤めてゐた印刷所から戻つて働くやうにとの話があるまでその仕事を續けた。此の印刷所では二、三ヶ月前に結婚するまで働いたのである。

此の三年半の間の彼女と家との關係は最初に於けると同じである。彼女は母にはよくするが、父に對する悪感情は未だどうすることも出来ない。兄弟達に對してはさう仲善くもしない。クラブには前と同じく興味を持つてゐる。彼女が結婚した男と知り合ひになつたのは、夏の休暇中であつた。一度家族に紹介するために彼女を家に連れて行つたことはあるが、以後は彼と一緒に家を訪問することは嫌がつてしないし、自分の結婚式にも家族の者は誰も招待しなかつた。彼女が結婚したので、家内は平和になつた。彼女のいふ所によると、夫は野心満々たる精力家といふことであつて、ステーションの希望によつてフィラデルフィヤに職業を見付けた。彼等は同市で新家庭を營み始めた。彼女は自分の理想や生活標準に叶つた暮しがしたいと家族の前で言明した。

スタンレーは今も家に残つてゐる。或る小さな工場に就職したが、數週間後に傭主は彼が立派な働き手だ、彼位の方がもう四、五人欲しいとさへいつて來た。此の傭主はスタンレーに個人的に興味を持つて出来るだけ早く昇進させてやる積りだといつてゐた。母は此の頃彼が矢張り悪友と交際することをやめなさいといつて愚痴をいつてゐた。併し彼は他に遊び友達が無いといふのだつた。そこでセツルメントの職業相談係が面倒を見ることになつて、彼を或る少年クラブへ入會させた。以後、彼は前の様な遊びをしなくなつた。約六ヶ月後に職業相談係がスタンレーのことについて又私達の意見を求めに來た。「スタンレーは精神的に異常性があるのではないか。彼は非常に感化を受け易く、最近と一緒に工場で働いてゐる友人に誘はれて、數日間工場を休んで自動車借りて旅行した」といふのである。併し兎に角傭主は暇を出さなかつたので、彼もことなく勤めてゐた。處が其の年の夏、例の悪友達以前に家を離れて暮してゐた時に彼と一緒にあつた一から勧められて彼は今の勤め口を捨て、夏中或るホテルに働かうとした。此のホテルのある山に登らうとしてゐた此の少年達は途中で自動車旅行してゐた一人の男に怪しまれ其の午後遅く逮捕さ

れた。警官のいふ所では彼等の自動車は盗んだものとのことである。そこでスタンレーも他の少年達と共に調査が終るまで十日間、留置場に入れられてゐた。セツツルメントの彼のクラブの指導者で自分の兄の様に彼の世話をしていた人が、彼のために話をつけて審判所から彼を連れて歸ることが出来た。其の人の見た所ではスタンレーは留置場に入れられたことを重大なこととは思はず、又斯様な友達との交際及び斯くの如き手段で新しい職業の口を求むることの愚なることを思ふ様子も無かつたのである。

家に歸つてから、彼は左官屋の臨時傭ひになつた。そして仕事をあてがはれた時にはよく働いたが後には度々怠けた。併し両親は怠けるからといつて彼を叱りはしなかつた。彼を怠け者でないと考へてゐたからである。仕事が無い時には家で母の手傳ひをした。母のいふ所によると彼は今でも矢張り落付かず、何時も氣持を爆發させる様な傾向があり、短氣で時々父と大喧嘩をするので困らされることである。彼は其の後犯罪をなすことはなかつたが、セツツルメントの職員達は矢張り彼を容易に他からの誘惑に乗つて馬鹿げた報ひを受ける様な識別力に乏しい少年であると見做してゐる。

ウラチミールは最近思春期の典型的特徴を見せ始めた。中學校の三學年を終つた許りだが、それ以上勉強する氣持は無い様である。矢張り音楽には深い興味を持つて居て、母もそれには期待をかけ、彼が弾いてゐる時には何時も夢中になつて聞惚れる。彼は今では非常に自己意識が強く、見るからに氣の勝つた力強い若者である。未だ就職しては居ない。家族は彼が音楽家になればよいと期待をかけてゐる、家族は皆矢張り音楽に非常な趣味を持つて居る。此の一年間に父は高價な蓄音機を買つた。何處からそんな金が入つたのか家族の誰にも分らない。それは被ひをかけられたまゝ居間に置かれてあるが、父は其の鍵を自分のポケットにしまひ込んで自分以外の誰にも觸つたり、レコードをか

けたりすることは禁じてゐる。

五 結 語

個々人の性向は往々にして其の屬する家庭に存する顯著な又は微妙な力によつて形成されるのである。故に此の最も基礎的社會機構たる家族の生活に於て起りつゝある種々なる事象こそは、個々人及び個々人の行爲を研究せんとする者にとつて重要な課題となるのである。此の重要性は、家族員相互間の關係が家族そのものゝ結合、幸福、及び效用性の實現を可能又は不可能ならしむるものであるといふ點から觀ても益々認めらるゝのである。

此のケースを選んだのは移住民の家庭のみならず、アメリカ人の家庭にもよく起る問題、即ち研究を要する性向を持つてゐる青年男女に於てそれを形成したものは彼等の家庭であるといふ事實を例證してゐるからである。

此のケースを提示するに當つて先づ各人の「肖像」を示し、次に其各々を擴大して描寫し、次に此の家庭で如何なることが起つたかを映畫式に展開した。そして此の家庭劇の主なテーマは貧困と一家の支配權を握らうとする者の野心の結果との二者である。家内の中數人は私設又は公共の社會事業團に彼等一人々々の相談を持ちかけたが、其の都度問題は個別的にのみ扱はれて全體的に見られることはなかつた。これに反して本所では家庭の雰圍氣の影響に就いて調べて見た。それを知るのには家庭の各員間の關係を了解するのに必要だからである。其の中の一人丈が目下我々にとつて問題視されて居るのであるが、此の全體的立場の必要なるは同様である。

而して此の場合に於いて治療上必要とされるのは、社會生活の理解と建設的な社會事業に於いて踏まねばならぬ次の大きなステップの中の一つの代表的なもの、即ち目には立たないが家庭内に於いて親が子供の生活過程を傷つけつゝある動因の認識と變改といふことである。

感情的に混亂せる體驗、代償作用、過度の代償作用、自我の主張、相互間の惡感情、反抗、これらの原動力が此のケースの中に範例として表はれてゐるといへやう。但しそれ等は時には恰かも自己中心本能なるかの如く、又は支配權への野心の表現の如きものに姿を變へ、或は此等各々が表はす問題の具體的な理解と具體的な解決法を欲するが故の注意深い分析となる場合もあることは事實である。

おそらく此のケースが最も明かに示す教訓は異つた個性が如何に異つた反應を同一の背景的事態に對してなすものであるかといふことであらう。

(Judge Baker Foundation, Case Studies, Series I, Case 17 4c)

(二) 性的誘惑と盜癖との關係を示すケース

犯罪行為の背後に性の問題の不調整が横たはつてゐるのは日常吾々が見聞する處であり、フロイドの精神分析を待つ迄もない事である。然し乍ら、性的衝動や又は過去に於ける性に關する狹義的又は廣義的經驗の連想より犯罪に驅りたてらるゝ青少年の心理に就いて、科學的に具體的に其の因果關係を究明したる結果の報告を吾々は餘り見ないのである。フロイドの如き唯ロマンティックなる獨斷的決定にあらずして、具體的事實の細目に互る研究に依りて、性の問題と犯罪行為との關係を明かにしたるものは不幸甚だ僅少である。性と盜癖との關係に就ては吾々は度々婦人の月經期に於ける萬引などに依りて、之等が相當密接なる關係を有することを知つて居るが、少年犯罪の場合等に於て、唯だ性的慾望や衝動に伴ふ感情の發露と云ふが如き一般的心理描寫に止まらずして、過去の性に關する具體的經驗の一つ一つと具體的盜みの行為の一つ一つとの間に、如何に心理的に生理的に相關々係を有するかといふが如き事に就

て研究したものは極めて少ないと云はねばならない。ケース・ウォークの實例を研究しつゝありし際、筆者は幸ひにも性的誘惑と盜癖の樹立との相關々係を示す良き一例を發見する事を得た。左は即ち其譯出であるが、少年犯罪問題の研究に關心を有する人士の参考となるべき事を疑はないものである。

ダグラス・グラント 年齢十二歳、父はスコットランド生れで後アメリカに渡り來り、母はスコットランド系のアメリカ生れである。

一 序 言

一、序言一九一九年の十月、米國マサチューセツ州の中部にある一村の雜貨店にジョン・リンチと稱する一人の少年が職を求めにやつて來た。彼は小綺麗にさつぱりとした風をして體格は如何にも丈夫相に見えた。彼のいふところによれば、年齢は十六歳で、長くアルバニーに父と一緒に住んでゐたが、最近その父を失くし、生活の道を絶たれたので暫く田舎で働きたいとの事であつた。彼のさういふ態度は良い印象を店の主人にあたへ、彼の言葉は如何にもそれを事實の如く思はしめた。それで主人は丁度近くに所有してゐる田園に人が足らず困つてゐたので、此の少年を傭ひ入れ雜役をさしたが、一日働いた彼は餘りに落ちつきなく動作はそはくとしてゐた。それで次の日主人は彼を暇を出した。少年は仕方なくその土地を去るためにステーションに行き、汽車の來るのを待つてゐた。その間に彼を探しに來た巡査に村の交番に引つぱられた。理由は彼が一日働いた田園で同僚が時計を失くしたためであつた。果して彼のポケットから其の時計が出て來、又同僚達の所有物であつた他の品々も出て來た。交番で彼はほんとの住所姓

名を告げた。早速彼の両親には電報が打たれ、事件は全州的に兒童救済に當れる一社會事業團に委ねられた。彼の母親は立派な風采をし、如何にも思慮あり氣に見える婦人であつた。彼女は息子が奇怪なる盜癖狂であり、如何して彼がそなたつたか彼女には更に理由が判らぬと述べた。救済事業團員が此の事件を科學的に解剖するために自分達の手に委せてくれとの依頼を母親は喜んで承諾した。村の巡查、田圃の同僚達も之以上事件を公けにする事なく、救済事業團員に全部を委ねることを承諾した。それで少年は母親と一緒に先づ其の村を引きあげた。

二 事件の背景の考察

A、家庭—本所に於ける彼の背景に關する知識は大概母親の語る所から得たものである。彼女の服装は非常に上品な着付で、氣持の良い洗練された印象を人にあたへ、活動的なハキ／＼した婦人である。彼女の言葉には聰明な感じがあり、所員がたづねることに何でもありのまゝ答へ、協力しようとする態度を示してゐた。彼女は息子が所員達に理解せられ、そして援助を受けん事を心から願つてゐる様であつた。彼女から得た報告は多くの點に於いて息子の言と合致してゐた。所員は父親とも會見したが、彼の言も亦他の二人のものと同じ致してゐた。

1 父親—年齢四十二歳、生れはスコットランドで幼少の頃両親に伴はれ合衆國に來た。彼は小學教育を受けて後、各所に支店を有する商店に六年前迄忠實に勤めてゐた。其後×町に金物屋を開いた。店はボツ／＼と繁榮に向つてゐる様であつた。然し彼は餘りに働きすぎたので、最近イラ／＼して氣短かになり、屢々醫師に神經性消化不良と診斷された。彼は自己意識強く、物事を氣にする方であつた。時間さへ許せば戸外で過す事を好み、又社交が好きで種々の社交機關のために活動してゐた。其の町で彼は相當知られてゐたので息子がなす不始末は彼を肩身狭く感じさせ、或時は苛酷と思ふ程息子を叱りつけた。疲れ切つてゐる時は屢々他の事に關しても同じ態度をとつた。が

彼は眞實善良な人間で、良き習慣と良き生活標準に即して生活してゐた。

2 父親の家庭背景—一つ處に長く住んでゐたため、町では可なり知られ、人々から尊敬されてゐた。父方の祖父は最初ある工場の監督であつたが後には雜貨店を営んだ。彼はそう大して優れて聰明といふ方ではなく「普通の人間」であつた。善良な人物である事は確かである。又父方の祖母は可なり年をとつて後に他界したが、彼女は男勝りで人を抑へつける方であつた。然し善き家庭の主婦であり、又一方他人の缺點を暴く事の好きな婦人であつた。彼女の子供十人の中七人は無事に育ち彼等は可なり成功してゐた様である。然し何れも特に大成功をしたといふ方ではなかつた。學校時代に於ては彼等の中の或ものは非常な良成績を得てゐる。

3 母親—年齢三十八歳、合衆國に於て生れた。如何にも健康相な元氣旺盛の婦人である。然し若い時には餘り健康でなかつたと云つてゐる。小學校卒業後結婚迄彼女の町の一商店に事務員として働いた。妊娠中を除いては大體に於て健康な方で、結婚後は育児に力を注いでゐた。最近は何事かあるといつてもそれに力を盡し、又夫を助けて店の仕事も一生懸命やつてゐた。

4 母親の家庭的背景—母方の祖父は非常に健康で百姓をしてゐた。彼の生れは良い家柄である。非常な酒豪で四人の子供達が未だ幼い中酒が原因で死んだ。祖母は可なり年老つてゐるが今も尙生存してゐる。子供達は普通である。そして大抵百姓を營んでゐる。

5 子供達—(一)ダグラス、(二)エルセル、八歳健康にして智能普通、小學校三年生、(三)シビル、六歳幼兒時代時癩癰をおこす。原因は他分拙劣な授乳法のためであらうと想像されるが、今は全く健康状態である。凡ての方面に普通である。

B 本人の發育——ダグラスの生命が母の胎内にうるつけられた時父は健康體であつた。母は丁度その頃祖母が病氣であつたので、それを心痛して餘り丈夫ではなかつた。妊娠中彼女は悪阻のため數ヶ月苦しみ、或時は病人の様になつた。赤ん坊の目方は十ポンドあつた。頭は非常に大きく、出産の際形が歪んだ。母乳で育てられたため生後の経過は誠に良かった。第十三ヶ月には歩行が出来始め、十一ヶ月でもうソロ／＼話せる様になつた。十八ヶ月で母の歌ふ子守唄を眞似したりして非常に早熟であつた。四歳の時迄健康體であつたが、四歳の時執拗な百日咳を患ひ、其の後原因の分らぬ高熱に屢々悩まされた。それ以來病氣勝ちで或時は數日間、數週間、又長い時には數ヶ月も床につく事があつた。そして悪い時には危篤状態に陥る事もあつた。醫師は多分「智慧熱」であらうと云つた。八、九歳になる迄こんな状態がつゞき其の後また健康體に戻つた。前年中にはうんと目方も殖え背ものびた。ことに此の三ヶ月といふものは肩幅も廣くなり、顔つきも大人らしくなつた。數ヶ月前彼は頭痛がすると訴へたが、さして非道く痛む様でもなかつた。今迄嘗て痙攣の様なものを感じた事はなく、またひどい怪俄をしたこともなかつた。

C、家庭及び近隣の狀態とその影響——七年前X町に移つて來る迄ダグラスの一家は父の仕事の都合で、紐育州の色々な町を轉々として廻つた。X町は丘の上にある氣持の良い小さい町である。夏には上流階級に屬する人々が避暑に來るが夏を除いては自立自營の町である。住民は僅かばかりのオランダ、イギリス、スコットランド系を除いては殆ど純粹のアメリカ人からなつてゐる。町の商賣地帯はごく狭く、町の人々のしみつたれ振を表はしてゐる。活動寫眞は一週に二度あるのみで、他の興行物は凡て教會と聯絡を保つてゐる。町の中で會合することも多いが、彼等は戶外の野でよく一緒に遊び、またピクニックや冬季スポーツ等を一緒にする。

ダラント家は町の中心に近く一寸た庭のついた綺麗な家で、庭の木々には果物等がなつてゐる。家の中も便利に出來てゐて、座敷にはピアノや蓄音器等があり整然と片づいてゐる。ダグラスは一つの部屋を獨占し本や遊び道具が充分に備はつてゐた。

母親は子供達をよく監督する一方家の事をおろそかにしなかつた。彼女はダグラスには殊のほか望みをかけ、出來る限り色々の事に興味をもたせる様にしむけた。父親のイラ／＼した氣質は子供達を餘り彼になじませなかつたが、それでも彼は時々子供達を遠足につれて行つたりした。

ダグラスは餘りやかましく親達に嫉けられはしなかつた。然したゞ一度父親にひどく鞭打たれた。それは盗みをしたからであつた。此の時以來ダグラスの氣分が甚だ變になつたので、父親は彼をひどく鞭打つことはよしてしまつた。次に彼がまた盗みをした時はたゞ口で叱つた。その時ダグラスはもう盗みをしないと約束した。父親は何時も子供の教育は母親の責任だと考へてゐた。父親はダグラスが如何して盗みをするかといふ事に就いて一寸でも根本から知らうと努力したことは一度もなく。母親のみにその責任を負はしたが、彼女自身もダグラスを理解することに失敗したと自ら告白してゐる。

D 習癖——三歳になる迄ダグラスは拇指を吸うてゐた。それを止めさせるために母親は「若し指を吸ふならもう決して玩具をやらなよ」と云つてきかせ、一度彼が指を吸つてゐる時に玩具を取りあげた。そしてその後、何時でもダグラスが指を吸つてゐるのを見る度に、母親は何時も「玩具が無くなつても良いのか」と聞けば、彼は大急ぎで指を口から出した。此の様にして指を吸ふ癖は止んでしまつた。食物に就いては幼少時には好き嫌ひが多かつたが、最近はそれ程でもなかつた。食慾は進み菓子を好む事は又特別であつた。茶、珈琲は一切飲まなかつた。彼が煙草を吸

ふてゐるのを母親は見た事はないが巻煙草が、用心深く彼の机の中にかくしてあるのを二、三度見た。彼女はそれは彼が男らしく他人に見られるために持つてゐるので、決して喫みたいからではないと解釋してゐた。

ダグラスは此の數年間獨りで二階にゐた。以前はよく眠つたが、最近になつて床の中でよく暴れ、又寢言を云ふ様になつた。度々彼は夜通し眠られなかつたと云つた。餘り早く床につく方ではないので、眠られない理由はないのであつた。幼少者として彼は夜うなされる事はなかつたし、今は夢や恐怖に襲はれて困ることはないやうになつた。性的習慣に就いては母親はダグラスが五歳の時二、三回自瀆をしてゐるのを見たが、それ以來は氣が付かなかつたのに、また最近夜床の上に横になつて自瀆らしい事をしてゐるのを見たと言つた。三年前父親は彼に其の點を注意すると共に、「人間が如何して生れて來るか」といふ問題について話してきかせた。ダグラスは其時眞面目にきき、其の後性の事を猥らに考へてゐる様子はなかつた。

E 趣味と友達——ダグラスの趣味の範圍は廣かつたが、その何れも普通でまた健全なものであつた。家で讀書する事をそのうち最も好んだ。少年雜誌では冒險小説を愛讀した。又戦争について讀むのも好きであつた。彼よりも年上の人々は彼が世の中の事に就てハッキリとした考へを持つてゐるので彼と話すのを面白がつた。彼は議論好きで政治家達を批難する事もあつた。學校では雄辯家、演説家として知られてゐた。彼は一つの題をあたへられると、大した用意もなく、その題に就いて劇的に色々の場面を展開しつゝ容易に又面白くその話をクライマックスに導いた。或時極めて即興的に「諸君さあ今暫く我々はベンチャミン・フランクリンの時代に還つたと假定しよう」と演説口調で始め、そして其の時代の様子を非常に上手に話してきかせて、大人も交つてゐる聴衆を喜ばせた事があつた。ダグラスは又書く事が得意であり、今迄に多くの一寸した話を書いたが大抵は少年らしい冒險談であつた。一時彼はそれらを一緒にして

出版しやうとさへした。

運動はスケートを除いては餘り好きではなかつた。然し友達と一緒に遊ぶ事は好きで、度々彼等と一緒に遊ぶ中に自然彼は戸外の運動に加はる様になつた。田園生活を好み、善い働き手であつた。仕事を非常に愛した。また音楽が好きで、我流でピアノも可なり弾ける様になつた。そして友達が寄つた時にはその伴奏で皆歌を歌つた。

或點非常に早熟な彼ではあつたが、然し尙彼は子供であつて、妹達のために繪を切抜いたり切抜帳を拵らへたりしてやつた。町では他の少年達とよく遊んだ。彼と同年輩位やまた少し年上の特別親しい友達もあつた。母親はダグラスが早熟であるから年上の子供と遊ぶものと考へてゐた。最近父親はダグラスの友達の中にいかがわしいものがあるのに氣付いた。然し確かめた事はなく、たゞ噂や又彼の店に彼等の中の一人が來て猥らな事を話したので推察したのである。それで父親は直にダグラスに彼等と交際する事を禁じた。ダグラスには又女友達もあり、その中の十三歳位の二人と特に親しく交つてゐた。

F 學歴——七歳で町の小學校に入學し、ずつと同じ學校につゞけて通ふてゐた。學校は六ヶ年の小學校課程と三ヶ年の高等科課程があつた。高等科の建物は中學校と一緒に建てられ現代式の建物であつた。教へ方も極めて現代式の學校で、校長の他に六人の女教師がゐた。一級の人数は二十人二十五人位であつた。ダグラスは常に良い成績で二度も進級を他の生徒より早くさせられた。(アメリカの學校の制度で成績の優秀なる生徒は一定の進級の時迄待つことなく随時に進級させる。)彼は八年の課程を六年目の六月に終る事が出來たのであつたが、校長が餘り早く修業させる事を躊躇した。九月に中學校に入學するのが普通であるがそれより半年早く三月に彼は中學校に入る豫定である。

最近迄彼は學業を非常に重んじてゐたが、殊更一生懸命に勉強したといふのでもなかつた。近頃になつて時々彼の品

行が問題になつたが、無断で學校を缺席した事はなかつた。唯彼は非常に腕白者であつた。そして友達の間に入氣があつた。彼は腕白をして人々に注意されたかつたのである。或教師は彼が學校でチャーリー・チャプリンの眞似をして友達を笑はせてゐるのを見て不快に感じた。二週間程前彼が女友達の注意を惹くために、彼等を何時もからかつてある 告げたものがあつた。校長は最近になつてダグラスの成績がすつと下り、去年甲ばかりであつたのが今年はこのみか丙迄まじつてゐる事を憂慮した。それで通知簿に其の點注意しておいた。

G 犯罪行爲——二年前迄は品行方正な少年であつたのに、二年前から盗みをする様になつた。最初は二仙三仙といふ風に僅かばかりの金を時々盗む程度であつたが、次第に多額を盗む様になつた。一度彼は兩親の部屋の中を探して十五弗を盗み、恰も夜盗が入つた様に見せかけておいた。また一度は金庫をあけて札束を持ち出した事もあつた。こんな事が度重つて相當な額を彼は家から盗み出してゐる。近處の内儀が一度ダグラスの家に次の様な事を云つて來た。それは彼女がダグラスに二弗渡して買物を頼んだのに、彼はお金は着服して品物は掛で買つたと云ふことであつた。ダグラスの家出は今度が最初である。働くために行つた田園から彼は時計と他の細々とした品を盗んだ。その時にも店屋の主人に最初偽つた様に彼は近頃非常に巧みな偽りをいひ、而かも之を何とも思はなくなつた。

三 本人の現狀に關する研究

A 肉體的方面——年齢にしてはダグラスは背幅が廣くかつちりとしてゐる。輪廓は目立つて強そうに見え、顎は尖つてゐる。顔付はませてゐるが氣持よくはつきりしてゐる。何時もきちんとした風采をしてゐる。頭の格恰は額が著しく隆起して不均整であるが、一寸大きすぎる感をあたへるのみである。

體重は百四ポンドあり、身長は五呎一吋ある。胸圍はよく發達し、筋力に於いても年齢よりは優つてゐる。良い血色を

してゐる。齒は丈夫で綺麗である。眼疾無し。耳疾無し。肢體の運動極めて良好。掌は擴げ、時微かに震へる（本人は何時もうたたと云つてゐる。扁桃腺は少し肥大。青春期の變化普通。心臟強健。他の凡ての疾病に對する反應陰、二三週に一度頭痛を訴へるが原因不明。

B 精神的狀態

(一)心理學的考査の結果 心理試験をうけてゐる間彼の態度は眞面目で熱心であつた。そして彼の最善を結果の上に表示はさうと努力してゐる様であつた。集注力は満點である。

十二歳の兒童に與ふる試験に於て彼は甚だ優秀な成績を示した。I・Q・一三八。聽覺、視覺に依る記憶力は兩方とも優秀である。筋運動及び精神の統制力優秀。心理的表現力優秀。言語と描寫に依る統覺力優秀。建設的材料を以てする仕事に於いても良き技量を有してゐる。何れの場合に於いても新しいものは直ぐ習ひ覺える。學力に關しては中學校の困難な本をた易く讀み、また其の意味をも理解する。スペリングを間違へる事は餘りない。書き方は下手である。

(二)精神的平衡 觀察に依つても心理試験に依つてもダグラスは均整のとれた精神狀態にある。

(三)性格上の特徴 小さい時彼は愛らしく従順であつた。然し最近になつて剛情になつた。父親に一度激しく鞭打られた時は氣むづかしく黙りこくつて、執拗にその事を考へてゐる様であつた。他の時に於いては、殊に叱られた後は後悔の様子を表はし、今後はすつかり異つた人間にならうと決心してゐる様に見えた。兩親共ダグラスの性格は最近極度に變化したと云つてゐる。二年前迄は彼は誠に正直であつたが、其の後全く變つてしまつた。彼の爲した行ひに就いて叱られると、大抵の場合偽りを云つて其の場を逃れ様とする。最初は些細の事に就いて嘘をついた。例へば何處で遊んでゐたかと聞かれてもほんとの場所を告げなかつた。嘘を云ふ様になつてから彼の態度は落ちつきがなくな

つて来た。然し或時は急に後悔して居る如く見え、それを奇妙な風に表はした。盗んだ金で彼は子供らしいつまらないものを買つてかくしてゐた。或日の事、彼は庭の一隅を掘り、それらのものをとり出して母親のところへ持つて来た。母親が「一體それは何か」と聞いたらダグラスは「私が今迄盗んだものに對して償ふために、之を皆あなたにあげます」と云つた。長い間の彼の行動に依つて彼が何か非常に氣にしてゐる事があるといふ事を色々な方法で示した。以前は家で良く手傳ひをし、また特に愛情深かつたが、其の點に於ても變化した。母親に對しては、彼の愛を態度に表現しなくなつた。寧ろ子供に冷淡である父親から愛情を示してもらふ事に大きな關心を抱いてゐる事をあり／＼と態度に表はした。母親は一體之は如何した事かと怪しんだ。そしてダグラスの自分に對する冷淡さを、學校の成績が下つたのを辛く思つて居る故であらうと解釋してゐた。

ダグラスは今迄餘り小遣を呉れとかまた特別にあつてくれ、かうしてくれとか兩親に頼んだ事はなかつた。何時も彼は「僕は物をくれと人に頼むのは嫌だ。僕は何にも欲しくない」と云つてゐた。親達が彼が盗みをした時にきびしく「欲しい物は欲しいとはつきり云ふんだ。」と叱つた時彼は「僕には欲しいものなんか何も無い」と云ひ返した。兩親はダグラスが何時も彼等に對して友達のを秘してゐるのと同じく、自分の願望に就いても心に秘してゐるのだと思つてゐた。

ダグラスの此の友達の事を秘すると云ふ性質は永年持つてゐたのである。小さい時には彼は友達の間で秘密事をさゝやき、何を話したのかと聞いても黙つてゐる事が度々あつた。幼少の頃から彼は非常にたくましい想像力を有してゐた。小さい時よく假想の友達をつくつて獨り言を云ひつゝ遊んだ。そして若しそれらの假想の友達が坐つてゐる場所を他の人がどうかすると、悲しげに大聲をあげてないた。夜ねる時動物の玩具をいつも手に持つてゐ

た。その玩具が彼の想像力を愈々逞ましくしたらしい。彼はまるで大人が想像も及ばない様な話をよく書いた。例へば森林の中の恐ろしい野獸を飛行機の上から捕へる様な話。

幼少の時彼は非常に物に感じ易く、若し一寸でも叱られると直ぐ泣き出した。今ではもうさういふ様な事はないが、物事に大變敏感である。友人が一つの物事に對し不公平な態度を取つたりすると、彼は非常に氣を悪くした。彼は仲々ニューモアに富み、人々にきかすための面白い話を良く記憶してゐた。自分より小さい子供達を可愛がり、また心の寛大な事は特別であつた。英雄崇拜の念にとり、歴史の本に表れて来る偉大な人物に對して深い尊敬を拂つてゐた。一年半程前、特に宗教的になり、教會の禮拜に出席したいと云つたが兩親は餘り若過ぎると考へたのですゝめなかつた。然し彼は一度出席して深い感銘をうけ其の後は毎日曜缺かさず出席した。

C ダグラス自身の陳述——以上は母親が述べたものであるが、此の材料を得る間、ダグラスは他室に於て心理試験をうけてゐた。結果は飛び抜けて良好であつた。本所員はダグラスとの會見の前に彼の答案に目を通した。試験中の彼の眞面目な協力的な態度もよく注視した。ダグラスとの會見は心理試験や體格検査をしてゐるうちから始められた。それはダグラスが本所員と親しくなり、何でも自由に話せる様にするためであつた。不自然ではなく、如何にも自然に學校生活や運動や身體の状態等についての質問から始めて行つたが彼は遠慮なく答へた。「戶外運動が好きで、一哩位なら泳ぐ事が出来るし、また父親と狩獵にも時々出かけた。冬は橇滑りやスケートが出来るから殊に好きである。二夏お祖母さんの田園に行つて働いたので身體は大變丈夫になつた。」

體格検査が終ると彼は靜かな部屋につれて行かれ、そこで尙會見はつゞけられた。最初の質問は「最近幸福であるか如何か」といふ事であつた。それに對して彼は「さうでない」と答へた。「如何して」と聞かれると「人の物品を盗

んだり偽りを云つてゐたから」と答へた。此處迄の會見で本所員はダグラスから聰明な印象をうけたばかりでなく、眞面目に彼が質問に直ちに云ひしる事なく答へてくれるので、根本問題に早く觸れた方が良いと感じさせられた。それで彼はダグラスに本所員は好奇心から色々な質問を彼に發するのではない。彼が如何して盗みをする様になつたか、將來此の盜癖から彼を救ひ出すために本所員は盡力する心算故、ダグラスの心中をはつきり聞かしてくれねばならぬ事を理解させ、またそう頼んだ。他の少年の場合に於いては多くは根本問題に達する迄に色々な事を廻り遠く聞くのであるが、ダグラスは何でも自由に本所員に話し、質問を良く了解してくれるので、直に根本問題にふれる事にした。そして一つ理由は彼と一緒に來た母親を何時迄も待たしておくのは、家でも手がなくて困るだらうし、また此處に長く滞在する事は費用が高くつくから、出来るだけ早く歸宅が出来るやうに、解決を急ぐのだと告げたのである。若しダグラスが本所員と協力して本所員の質問に即答してくれるなら、今日中に事件は片付いてしまふだろうといふとダグラスは承諾した。

「よく考へて前の事を思ひ出してごらん。そして一番最初君が盗みを知つた時の事を思ひ出せないか」、「はい覺えて居ります。ポップ・カルツが彼のお父さんの水車場の事務所の中にある机の抽出から金を盗み出すのを見たのが最初です。それは何時だつたか」、「二年程前でした。其の時、ポップと君の他にまだ誰か居たか」、「はい、ポップの友達のジム・ピーカーやハリ・リーパーの他未だ二、三人居りました。皆よくいつも盗む奴等です。ポップ・カルツは盗みの他に未だ何か悪い事をするか」、「彼は不良少年でした。どんな風に」、「よく猥らな事を話しました。女の子の事を下品に話しました。斯ういふ風な問答を尙つゞけて行くうちに、大體次の様子が本所員に了解せられた。×町の多くの少年達は女の子に就いて色々下卑た調子で話し合つた。ダグラスはそんな話を特にポップやポップの

仲間の他の少年達から聞いた。又町には數人の不良少女がゐたが、ダグラスは未だ彼等と口をきいた事はない。ポップはダグラスより四歳年上である。ダグラスは他の少年達が話してゐる事をたゞ聞くのみで、そんな事を深く考へた事はそれ迄なかつた。然し彼等と交際してゐるうちに、彼等の會話がダグラスの頭の中を何時も往來して、考へまいとすればする程餘計頭から去らないのだつた。そして不良少女達の事も友達の少年達と一緒に結びつけて考へる様になつた。「彼等はお互ひに何か悪い事をしたか」、「はい、見た事はないけれど少年等はそれを得意相に話してゐた。何處で彼等がしたのかは話さないで場所は知らない。此の事に就て知つたのは何時か」、「盗みを始めたのと同じ頃であつた。如何してそれを覺えてゐるか」、「水車小屋でポップのお父さんが出て行つた後、少年達はいつも集つた。そして女の子の事に就いて面白そうに話した。それが一番始めだと思ふ。その事は今も君の頭にはつきりしてゐるか」、「はい、その時ポップが金の抽出をあげ、他の少年達はそのまわりに立つて女の子の話をしてゐた。ダグラスの話し振りは控え目であるが、彼は正確に話さうと努力してゐる様であつた。時々確かでない點に出會すと正直にそう云つた。

「僕は盗みをする時は何時も誰も居ない時で、友達に盗んだ時には僕はそれに加はつてゐなかつた。時々床の中で眠る前に盗みの計畫をして其の時は何時も想像的に少年達と話したり、女の子の事に就いて考へたりしてゐたが、その事が自分を神経質にして眠れない様にしたとは思はぬ。如何して盗んだのか。たゞ色々な物が取りたかつた。何でも目についたものが取りたかつた。そして自分にとつて何の役にも立たない様な物迄取りたかつた。其の一例は充分小遣錢を持つてゐる時さへ抽出から金を盗んだ。理由は金はその抽出にある事を知つてゐたからで、取つた後で盗まねば良かつた後悔した。そう云ふ場合が度々あつた。それで今度の家出も田舎にでも行つて働いたら、そんな慾望から解放

されるだろうと思つたからだ。その町は以前に行つた事のある町で、そこにある店屋の主人がきつと何か仕事をくれると思つた。それで夜半の二時に起きて出かけた。町の人は誰も起きてゐなかつたので店が開く迄待つてゐた。店屋で働き出した次の日、主人は僕が充分の仕事が出来ないから歸つた方が良く云つて二弗くれた。その家から立ち去る前に腕時計を見たのでそれを盗んだ。如何して盗んだか自分でもよく分らない。他に數個の品物を盗んだ。テープの物指しや釘拔等もあつた。ステーションに行つて汽車を待つてゐる間に巡查の手に掴まつた。ポップ・カルツ達と交際する迄は決して盗みをした事がない。最初盗んだ金は僕が賣つた新聞から得た金でお母さんには失くしたと云つた。それは二年前であつた。その金で私は菓子を買つた。「君は幸福ではないと云つたが、如何してか。何が君をイラ／＼させるのか」。今云つた二つの事のために僕はイラ／＼して幸福ではない。「二つの事とは何か」。女に關した事と盗みの事だ。「家庭では如何云ふ風に君を取り扱ふか」。兩親も弟妹も自分にはよくしてくれる。おばあさんも大好きで夏休みにはおばあさんの居る田舎へ行くが、そこで過すのはとても愉快だ。日曜學校にも行くが、牧師や先生には勿論又兩親にさへ少年達がしてゐる事に就いては一言も話した事はない。兩親も今迄性の事に關しては餘り僕に語つた事はない。「よく眠れるか」、「夜通し眠れない事がある。朝の二時や三時迄ねつかれない事は度々ある。理由は別に思ひつかない。たゞ眠れないのである。眠らう／＼とあせる程眠れないのである。特に心配な事は何も無い。二三月月に一度は必ず夜通し眠れない事がある」。女の子に就て考へるからでは無いか、「それが理由であると思はないが確でない。珈琲、茶等は餘り好まないから夜眠る前などには決してのまない。煙草は數回吸ふ事がある」。此處迄質問してから所員は「何でも隠さずに話さない。恥かしい事はない。私は君を助けてあげる心算だから」と云つて性的習慣に就いて尋ねた。「ポップ・カルツや他の少年達が自演の事を話してゐたので自分もしてみた。それ

は二年前程であつた。其の後度々眠る前にその誘惑に會ふた。何時も十五分か二十分間は床についてから眠れなかつた。最近になつてから一晩おきの様にした。然し毎晩ではない。以前は毎晩の様にした事があつた。晝間は決してした事はない。此處迄述べるとダグラスは突然聲を大きくして「晝間此の事を考へると何時でも盗みたくなつた」と云つた。

ダグラスは學校の成績がおちた理由は家庭で前の様に充分勉強しなくなつたし、學校に出す帳面を整理してないからで、しようと思へば以前の様に何時でも勉強出来ると云つた。

本所員は此の聰明な少年が彼の引かゝつてゐる問題に關してどんな想像力を有してゐるかを確めるために、また彼の誘惑の精神的原因をつきとめるために尙質問をつゞけた。その結果は非常に良かった。ダグラスは眠れない夜、色の物を頭の中で想像する。嘗て見た美しい湖の景色、お祖母さんの住んでゐる廣々とした田舎等が繪の様に浮んで来る。彼はまた平常繪を見る事が好きなので、色々な繪を集めてゐるが、殊に宇宙の自然現象を描いたものは大事にして、度々取り出しては眺めた。山の繪、瀧の繪、公園の繪等は特に好むものであつた。他の繪は眠る前に浮ばないか」といふ問ひに對しては彼は顔をあからめて「はい、雑誌の中で見た女の繪である。廣告に出てゐる婦人の下着や靴下の繪を、お母さんがとつてゐる婦人雑誌の中で見た。活動寫眞には餘り行つた事はない。けれど見た寫眞の中で頭の中に残つてゐるのは戀人達の接吻の場面である。友達が教へてくれた下品な小唄や又悪い話も時々思ひ出すが、その中の何れが特に私を悩ますといふのではない。たゞ全體に今云つた凡ての事が漠然として、床に入つた時一番に頭の中に浮ぶのである。夜半に目がさめた時や晝間にそれらになやまされる事は餘りない。

以上の事をダグラスは言葉を濁したり、云ひ澁る事なくはつきり述べたが、もつと何か他に彼の頭の中を往來してゐる

る事で、彼が未だ云つてない事がありはせぬかとの質問に對して、「時々一人の女の子の事を思ひ出す。二年前田舎に行つた時會つた子で僕と同じ年だつた。仲間の少年達から聞いた事をその子にしてみた。その子は抱いてほし相に口では云はなかつたが態度で表したから。僕も其の子もその時の事に就いては誰にも云つてない。」「之等の事の中でどれが一番先に夜君の頭の中に来るか。」「時によつて違ふ。或時は盗みの事が最初に來、それから女の子の事、その次に見た繪の事等であるが、或時は之と反對の場面もある。」「如何して婦人用下着の廣告が性と關係ある様に君の頭に入つたのか。」「何時も水車小屋の事務所の光景を思ひ出す。ポップ・カルツがそこで女の足の事を話した。ポップは僕にそんな繪を見せた事はないが、雑誌の中に女の繪が澤山あるから見てごらんと云つた。それで雑誌を見る様になつた。ポップが始めにそう言つたので、お母さんのとつてゐる雑誌を見てみると、度々ポップの事を思ひ出す。」「繪を見てゐる時に盗みの事は考へたか。」「多分考へたゞらうがはつきり判らぬ。」「若しお母さんがそんな雑誌を取らなかつたら良かったゞらうと思ふか。」「多分そうだつたゞらう。」「

彼は今回の店屋での犯罪はダグラス自身其結果が餘りに大きいのでびつくりしてゐる様である。盗みを仕様などといふ考へは毛頭なかつた。自分自身で如何してそんな事をしたのか判らなかつた。「品物を見たら急に盗みたくなつた」と彼は述べてゐる。店屋の人々は彼に極めて親切であつたので、恨みなど抱いてしたのではないと繰り返し云つてゐる。

暫らく休息した後、再び會見はつゞけられた。店屋で盗んだ事件後未だ僅か一週間しか経つてゐないので、ダグラスの記憶は新しかつた。慎重にゆつくりと本所員は其の時のことを質問した。そして其の時の盗みの直接原因を掴まふと努力した。

店屋に行つた夜はダグラスは疲れてゐたので床につくや否や直ぐ眠つた。その時に性の誘惑は少しもなかつた。そして晝間はその事に就いては考へなかつたと云つてゐる。其處では下卑た會話を少しも耳にしなかつたし、また若い人々にも會はなかつた。彼は未だ嘗て大人の婦人に對しては何らの性の誘惑を感じた事はなかつた。他の種々なる點に於いても所員の臆測して尋ねた事に彼は否定の返事をした。

店屋で最初の朝二、三時間雜役をして後彼は家に入つて椅子に腰をかけ、晝食の出来るのを待つてゐた。家の人々は皆何處かへ行つて其處には居なかつた。あたりをキョロ／＼見まわすと窓際にテーブルの物尺と釘拔があつたのでそれを手に取ると直ぐポケットの中に入れた。之等の品は彼にとつて何の役にもたゝないものであつた。慾しいとも何とも考へずにとゞ取つたのである。其の夜床に入つた時部屋の中を見まわして押入の棚の上に日々讀むための聖句が書いてある小さい本が目についた。彼はそれをもとつた。次の朝彼は充分働けないからといふ理由で解雇せられたのである。其の家を辭する時、座敷を通り抜け、其處のテーブルの上に腕時計のあるのを見て、それをポケットに入れた。幾度も／＼所員に其の時の事を質問されて後次の様な事が判つた。それは最初の朝、晝食の出来るのを待ち乍ら椅子に腰かけてゐた時、彼は手近にあつた雑誌を手にした。そしてその本を見てゐる時にふと窓際に物尺と釘拔を見たのである。何時も彼の家で雑誌を見る時の様に、女の子の繪のみを探し求めてページを繰つたが其の雑誌は自動車の雑誌でそれらしいものは何もなかつた。その夜の盗みに就いてはそれを説明する様な事を彼は何も記憶してゐない。兎に角彼は非常に疲れてゐた。腕時計はその前日彼が雑誌を見たのと同じところにあつたが、如何して急にそれを彼が盗んだのか理由は判らない。

盗む時の氣持に就いて彼は急に潮の様に衝動が胸に押し寄せてきて、彼が見たものを手當り次第、欲しいものでも欲

しくないものでも盗ませるのだと云つた。彼はそんな時特に神経質になるわけでもない。目にうつゝたものを如何しても取らねばならぬ気がする。若し躊躇して盗んだら、其後は餘計ほつと安心した様になる。盗んだ事に依つて心が亂されたり心配したり神経質になる事はちつともない。一旦盗んで後、品物を元へ戻した事は一度もない。或時は彼は前夜から盗む事を考へておく。するとその盗む品を見た時、心の衝動が非常に強い。が前から全然計畫無しに盗む事も度々ある。所員はダグラスが母親の抽出から金と装飾品を盗んだ時のことを訊いた。「あの時は探し物があつて二階に上つてゐた。そして急にお母さんの抽出に入つてゐるものゝ事を思ひついた。去年の冬であつた。午後、それらの品を取り出すと庭の雪の中に隠した。盗んだ後は何ともなかつた。氣持は平常の時と少しも變らなかつた。其の後でスケートに出かけた。盗む前に僕の頭の中を何か往來してゐたか記憶にない」。今迄彼が盗んだのは今度の事件を除いては殆ど家からばかりであつた。一度彼に近所の人が買物をしてくれと頼んだので渡された金をごま化して掛で買物をした。其の金で彼はその頃切手の蒐集をしてゐたので切手を買つた。

所員が「如何したら君の盜癖は無くなるだらう」ときくと「判りません」と答へた。「夜ねる前に君の頭に浮んで来る事をどうにか處分したら良いだらう」と云ふと「盗みとそれと餘り關係ある様に思はない」と答へた。そして今迄餘り色々な嘘をついてきたので、自分でも恐ろしく早く正道の人間になりたい。そのためなら何でもすると云つた。

所員は彼の母親が話してくれた他の悪い友達のをきくと、ダグラスの知つてゐる限りでは、その少年は盗まないが女の子の事を下卑た調子で面白く話すと云つた。その少年は十七歳で女の子とも、また他の男の友達とも性關係を結んでゐる。ダグラスはその事を彼自身の口からきいたと彼の口調を眞似してきかせた。ダグラスは以前此の少年と親し

かつたが今ではそうでない。(此の少年がダグラスの父親の店に来て下品な事を云つたので父親がダグラスに彼と交際する事を禁じたのである)。

問題の研究を更に進めるために、特にダグラスが「自分の頭の中から追ひ出してしまひたかつた」と云つた言葉を基礎として「どんな嫌な事が彼の頭の中に入つて来るか」ときくと「雑誌の中で見る事が私を悩ます」と答へた。「晝間も悩まされたか」。「晝間も悩まされるし、性的衝動に度々かられるが晝間自漬をする事はない」。彼は晝間此等の感情と盗みの間にどんな關係があつたかはぼんやりとして判らない。然し夜その二つの事が代々頭に出て来る事はよく覚えてゐる。度々彼は性的興味を以て雑誌に目を通した。そしてそれらの繪にひきつけられた。之が盗みたい感情と關係があるとは思はないが、雑誌を見てゐる間に度々ポップの事を思ひ起し、それから盗む事を考へる事が屢々あると云つた。所員が「ポップの事を考へると盗みたくなるのか」ときくと「はいそうです。ポップも僕もよく雑誌を見ます」。

此處でダグラス自身との會見を一旦終へ、ダグラスの母親からポップ・カルツに就て彼女が知つてゐる事を尋ねたが、彼女は餘りよく知らなかつた。「二年程前ポップはダグラスとよく遊んでゐた。その頃からダグラスは悪くなつた様である。ダグラスからポップはよく盗み、父親の抽出から金を盗むのを見たと話してくれた事がある。或店でポップは一時働いてゐたが、店に来る若い女の子をからかつたり、身體にふれたりするので直ぐ解雇された。兎に角ポップは町の不良少年の大將である」。母親との會見は之で終り、も一度所員はダグラスに田舎での最初の晩の事を記憶してゐるかときいた。ダグラスは本が棚の上にあつたのを見た事を申した。其の寢室に入つて来る迄彼は階下で少年雑誌を讀んでゐた。その本の中には別に悪い事は何も無かつたが、何時の間にか無意識のうちに彼はその本のページを何時もの様に女の子の寫真や廣告が出てないかと探しつゝ繰つてゐた。

所員は如何してダグラスが翌朝腕時計を盗んだかその理由を見出す事が出来なかつた。ダグラスは繰り返しく同じ事を云つた。「僕は部屋を通りかゝつた時、たゞそれを見ただけなのです。そしてそれをポケットの中に何気なしに入れてしまつたのです」と。彼は残念そうに「僕が家出したのは盗みや性の事を忘れてしまひたかつたからです。私は何處か都會へ行きたい。X町には不良少女が澤山あるから歸りたくない」と云つた。

所員がはつきりと「盗みと性に関する事が君の頭の中で一緒になつてそれが君を悩ますのだ。」と云ふと「前にはそう考へた事は無かつたが、今あなたに云はれるとそうだとも思はれる」とダグラスは之を理解したのである。

母親はダグラスが神経質だといふので、其の事をきくと「時々、僕はイライラとして来て何でも構はない、何か盗まねばならぬ氣がする。そして何か盗んでしまふと、それですつかり落つてしまふ。それ故落つたために物を盗む様な氣がする時がある。」「そんな感じは他の時にも起るか」ときくと一寸考へたが、急に眞面目な顔をして、「はい、自漬をやる時も丁度その様です。やつてしまへばそれで氣持はずつかり落ちつきます」。

母親からX町がかなり墮落した状態にある事をきき、又ダグラスから色々な證據を得たので、所員はX町の廓清を計畫する事が最も此の問題の解決に重大であると感した。ダグラスは不道德な事を平氣とする青少年女達の名前をあげた。或者達はかなり亂れた關係を持続してゐる様であつた。ダグラスは女學校の生徒や高等科の生徒達は殆ど皆不道德な事をしてゐると云つた。ダグラスが親しくする二人の女の子位が不良でない丈だと母親も云つた。少年の不道德に關してはダグラスは自分自身位が不道德な事をやらないと思ふと云つた。母親は何時も悪い友達と遊ぶな。町長の息子となら遊んでも良いと云つたが、ダグラスは其の少年も不道德な事をしてゐるのを知つてゐた。何故なら此少年自身が度々得意相に女の子と關係した事を話した。母親にダグラスは此の事は未だ話した事はなかつた。

此處 會見は終り、後は今後X町を良くするには如何したら良いかを雜談的に話した。

四 所員會議協議事項

A 問題—犯罪行爲、即ち屢々金錢及び物品を家庭より盗み出し、他所よりも二度盗み出す。最近家出す。

B 肉體的状态—發育良く健康體。極めて早熟である。反射運動敏捷。扁桃腺稍々肥大。丈夫相な顔つき。時々頭痛を訴へる。

C 精神的状态—(一)能力優秀。運動神經に關するものを除いては凡てのテストの結果優秀。學力優良。(二)精神的平衡普通。(三)性格、多くの長所を有してゐる。最近迄模範少年として人々に認められてゐた。素直な性質を有し男らしく活動的である。

D 背景—(一)遺傳、母側の祖父がアルコール中毒であつたのを除いて他に缺陷は無い。(二)發育、母親妊娠中悪阻になやむ。難産、四歳の時重病にかゝつた後數年間神經質で腺病質であつた。非常に早熟である。(三)家庭状態圓滿。(四)習癖、過去二年間にわたる自漬。

E 犯罪の原因—(一)悪友、(二)盗みと同時に覺えし性的知識、(三)兩者交互の聯想、(四)内心の闘争、(五)悪しき社會的影響。

五 豫後及び提議

此の聰明なる少年を犯罪から救ひ出すためには出来る限りの方法を講ぜねばならぬ。先づ彼の周圍の状態の變化が必要である。若し町の不良的雰圍氣を變化する事が不可能ならば、彼を何處か他の場所に住ませる事が急務である。父親の仕事を止めて他所に引き越す事は困難故、親類に預けるのが良いかも知れぬ。然し成るべくならば家庭から少

年を引き離さず、町の廓清を父親が牧師や学校の主任等と協力してなすが一番良い方法と思へる。次に就眠時の彼の性的興味を他に移す事が重大問題である。そのためには彼に高尚で興味深い本や繪をあたへる事である。若し彼の頭痛が尙度々おこるならば、醫師の注意深い診断を乞ふ事が必要である。

六 其の後の経過

本所からの歸途ダグラスの母親は彼を連れて親類の家に立寄り其處に二、三日泊つた。彼が去つた後、其の家ではそう大して高價ではないが色々な品物がなくなつてゐる事を發見した。そしてダグラスの袋の中からその品物は皆出て來た。然しつまらない品物のためにわざ／＼彼をつれ戻して厳しく取り調べる程でも無かつたので、其の時の事は其の儘になつて終つた。

それから三年経つた。其の後のダグラスの品行に就いて本所に來た報告は、皆良いものばかりであつた。ダグラスは責任感の強い信用するに足る人間であるとの定評を得る迄になつた。又非常に勤勉でよく貯金し家庭の手傳ひをし、まるで生れ變つた人間になつた様である。

町の悪い方面もすつかり改革されてゐた。ダグラスとの會見後、本所員はダグラスの陳述を土臺として、尙町の様子を探り調べ、牧師や町の有力者達に其の旨を報告した。彼等は薄々と不道德な事を若い人々の間に探知してゐたが、問題が問題なので誰もよう云ひ出し得なかつたのである。町の判事は其の町で二、三私生子の事件を取り扱つたので、若い男女の關係が相當亂れてゐる事を知り、町の廓清を計らねばならぬと考へてゐたと述べた。警察部長は町の有力者から町の事を兎や角批難される事を非常に嫌がるので如何とも出来なかつたとこぼした。

如何して此の町の不道德な方面が廓清されたかは非常に興味ある事である。ダグラスの両親は先づダグラスの友達

の両親達と協議した。彼等も亦其の息子達からダグラスの両親が聞いたのと同じ様な事を聞いたのである。此の親達は寄り合つて一つのクラブを組織し、其の息子娘達をもそれに加へた。此の社交機關は非常に大きな奉仕を社會に貢獻した。それは町の不道德状態をすつかり無くしてしまつたのである。彼等のとつた方法は特に優れたものでもなく、たゞ常識的方法で息子娘達の娛樂的方面に注意し、健全な指導をしてやる事に過ぎなかつたのである。

ダグラスの學校の成績は以前の如く優等になり、其の行動に於いても他に迷惑を及ぼす事はなくなつた。今中學校に通つてゐるが、與へられた課目は非常に少く、彼は三年生であつたのに僅に四科目をとり羅典語は全然無かつた。そして數學は小學八年の時からなかつた。彼は勉強がた易すぎるとこぼし、家で勉強するものがないと云つてゐた。教師達の内には十九歳位の若い無經驗者で教師として充分の資格も無い者もあつた。學校の當局者達はダグラスの優秀な能力を發揮させる事に少しも意を用ひなかつた。ダグラスが或知人からすすめられた職業は建築家か或は機關手の術を習ふ事であつた。

以上は本所に送つて來た報告であるが、尙詳しい事情を知るために千九百二十二年の春休みに本所にダグラスを招き精細に其の後の経過を調査した。

七 第二回目の調査

A 肉體的状態——現在年齢は十四歳七ヶ月である。目方は百五十ポンド、背の高さ五呎六吋、普通以上に廣い肩幅、稍々大きい骨組、よく發育した均整のとれた胴體、頑強で稍々鋭い輪廓、とがたつた顎を有してゐる。完全な青春期の發達を遂げてゐる。手をのばした時可なり震へる。反射運動敏捷。三頭筋、肩胛骨の反射運動普通、肢脚の運動普通、種々の疾病に對する診断の結果陰、以前に起つた頭痛現今は無し。

B 精神的状態——(一)能力、優秀にして視力、判断力、言語を使ひ分ける能力、機械をくみたてる能力等は殊に優れてゐる。何れのテストに於いても彼の年齢平均より低いものはない。聴覚記憶によるものは他、何れよりも低いが普通平均より劣つてゐる程ではない。

大學の一年及び中等學校の四年に與ふる三十分間にわたる一般テストに於いて、大學一年生の中等以上の成績順を得た。

(二)精神の平衡、會話及び一般社會的統覺は非常にはつきりしてゐる。成熟したしつかりした精神的態度をもつてゐる。

(三)性格、靜かで眞面目であるがまたユーモアに富み動作は敏捷である。勤勉家で行儀良し。

C ダグラス自身の陳述——X町の様子は以前とはずつと變り、若い人々は大變良くなつた。二、三人の一番不良の少年達は町にもう居ない。少女達の不良であつたものは今は非常に良くなり、少年や少女達は性に就いて下品な話をする事は止してしまつた。彼等のためにクラブが出来た事は一番良い改革法であつた。「父子のクラブ」、「ボーイ・スカウト」等が出来、良い指導者によつて少年達は指導され、少女達もまた同種類のクラブに屬してゐる。

ダグラスは其の後二、三回盗みたい誘惑に會ふたが、それに打ち勝つ事はそう困難では無かつた。(彼が此の前本所からの歸途親類に立ち寄つた際、盗みをした理由はその後如何しても判らない。)彼の頭から雑誌の中の女に關する廣告の繪も薄らいで、女の子に對する性的興味もなくなつてしまつた。今ではよく眠り、頭痛もおこらなくなつた。大學に入る準備に専心し、そのため幾分の貯金さへしてゐる。

八 結 語

此のケースは聯想といふものが如何に力強く心の中を支配するかを示した例で、聯想させる動力となるものがその發露を防がれたために、聯想した結果が犯罪となつて表れた事を物語るものである。之はダグラス一個人に關した事ではあるが、その背後にはそれを助長した不完全な社會状態が存在してゐる。

此の一例の中に思慮深き學徒は多くの學ぶべき點を見出すであらうが、以下に抜き出された點は殊に注意せらるべきものである。

- (イ) 小さい都市の表面的及裏面的状態
- (ロ) 子供の考へてゐる事を親が往々理解しないし、また理解しやうと努力を拂はないこと
- (ハ) 盜癖の原因が盗みとは全然關係無きが如くに見ゆる微妙な問題から發してゐること
- (ニ) 犯罪に對する普通の防止法は此の場合何等の役にも立たぬこと
- (ホ) 犯罪の原因を刺戟する外來物——此の場合に於いては雑誌の中の廣告繪——を與へぬ様にすることは不自然であるから、それを他のもつと興味深い高尚なものに變更させる事が大切であること
- (ヘ) 子供の内心の願望を正しく表現さす様に導く事が大切であること
- (ト) 悪い環境からは犯罪が生じ易い。犯罪を少くするには環境の變化が必要であるといふこと。

(Judge Baker Foundation, Case studies: Series 1, Case 5 4a)

(三) 遺傳と環境との交錯を示すケース

環境が我々に影響し、否我々を「造る」過程は實に複雑なるものである。我々は往々環境を現在我々を直接圍繞す

るものゝみに過ぎるかに簡単に解釋するの弊に陥り易いものであるが、事實は斷じて斯くの如く簡單なるものではない。自然的、物的環境が直接我々に働きかゝるの複雑なるに加へて、精神的、社會的環境が所謂條件反射の法則に依りて我々に働きかゝる事實に想到する時、其複雑多様な殆んど啞然たらざるを得ざる位である。我々は又極めて簡単に遺傳に就いて論ずる。然し乍ら近代遺傳學は遺傳が爾かく簡單なるものにあらざる事を教ふる。更に心理學的テストの發達は人間の素質的才能及び知能に於いて、幾多の異種のもを併有するの事實を教ふる。之等を全部發見する事は今日に於いては不可能の事に屬するが、我々は稍ともすれば僅かなるテストや觀察に依りて、遺傳的素質をも決定せんとするの誤りに陥り易いものである。更に遺傳と環境とは不可分離的に働くものなるに、之等兩者を引離して考へんとするの過誤を往々敢てする。

ケース・ウォークは徹底的に人間の遺傳、環境及び之等兩者の交錯に就て知り、而して後所謂社會診斷をなし、社會治療に進むものである。左に掲ぐるは此點より觀て最も教訓多しと思はるゝ一保護少年のケース實例である。斯道研究家及び實際家の参考となるを得ば筆者の幸之に過ぎぬであらう。

ハリイ・ハーモンド

年齢 九歳六ヶ月

国籍 兩親共アメリカ合衆國市民

一 緒言

ハリイは一見快い感じのする面貌と、幾分繊細な然し整つた體格の持主だが、一九一七年七月迄八年間寢食を共にした婦人が、餘りにも問題の子供だとして持餘してしまつた少年だ。種々な不良行爲の内でも數年間に亘る窃みや、使ひ

にやられた所釣錢を胡魔化した事、危険極まる放火をしたり、電車であてもなく乗り廻したり、或ひは家出をしたりする事に關して、彼女は特に困つて居る旨を申立てた。最近夜半に警官に擧げられたが之が二度目の事で、彼女はもう彼を自分で世話する事は出来ぬと抗議した。或る兒童保護團體が父の要求で彼の世話をしようと考えをして居たのは其頃の事であつた。で先づ體格検査から始めたが結果は良好、次に精神病院の外來患者部で心理的考査をして貰つたが之も結果は良好、彼は全く精神的に正常だと云ふ事であつた。然し彼を暫く預けた家では、早速切手や其他のものを盗んだり、手當り次第に物を壊したり、風呂場に數回放火したり、相當額の金を盗んで巧みに隠匿したりした。そこで今問題になつてゐるのは、更に他の家庭に委託して見るとして、果して如何なる處置を採れば良いか、或ひは思ひ切つて少年感化院にでも收容した方が良いかと云ふ事である。

二 彼の背景の研究

一、家族（彼の家族に關する資料は全然彼の父から得られたものであるが、全く正確なものだと信ぜられる。父は實直で氣の好い人物に見える。家族以外の事に關しては前述の養母と學校の教師から本所の訪問員が正確な方法で聴取したものである。）

A、父—四十五歳、相當の教育もあり實業に携はつて居るが世評の良い人物。ハリイの保護に要する費用は確實に支拂つて居る。

B、父の家族—正常、健康、米國市民、神經的又は精神的疾患或ひは異常性の者なし。

C、母—居所不明。死亡したとも云はれるが信するに足らぬ。彼女は健康で正常な又聰明な婦人で、評判の良い一座の、端役ではあるが女優であつた。彼女は高等女學校に修學したが、やがて或る高級の演劇學校の課程を取つた。

彼女は他に何と云つて不道德だと云ふ點は無かつたが、唯だ父（彼女の夫）とた易く關係してしまつたのだ。然して父は「彼女なんか深入りするなど俺は如何にも馬鹿だつた」と云つてゐる。彼女が妊娠した時には彼は一生懸命に彼女に悪名を被せまいとした。其後彼女の両親に始めて會つた。そして彼等は極く穩やかに結婚し、子供は病院で生れた。退院して以來母は此赤兒に何等興味を持たなかつた。彼女は矢張り女優としての生活を續けやうと欲し、父子を捨て、家出してしまつた。其れ以來父は彼女の事に就いて何等聞いた事が無いのである。D、母の家族—母の父は獨逸人であつたが、着實な熟練職工で、外目には聰明で健康に見えた。彼の父は其地方では相當名の賣れた俳優であり、彼女の母は商賣にかけて非常な才能を有し、町の一商店の或部の主任として成功した人物である。彼女には一子あつたのみ。

E、兄弟姉妹—父の第二の結婚によつて出來た二歳になる異母妹は、健康で智いと云ふ事である。他に兄弟姉妹なし。二、發育上の經歷—母は妊娠を隠さうとして随分強く腹を巻いて居たが、産は時期も凡て正常であつた。赤兒は出産時は順調に育ち、母乳を四週間丈飲んだ。其後は母が彼を哺育する事を拒んだ爲めに、託兒先を新聞廣告で見付けて彼を預けた。父は彼の生後十五ヶ月目に彼が正當な養育を受けて居ない事に感付いた。そして醫師に診せた處榮養は非常に悪く、肥えては居たがイギリス病の傾向があると云ふ事であつた。生後十五ヶ月になつても未だ坐らうとも這はうともしなかつた。滿三歳になる迄彼は歩けなかつたが、三歳になつた時も色々な特別の手當を講じて始めて歩き出したのである。四歳になる迄話しが出來なかつたと云ふ事である。醫師の指圖の下に新しい家庭に委託してからは彼は發育が良くなつた。小兒の諸疾病には罹つたが何れも軽く済ませた。七歳になつて重い肺炎に罹つたが其後は健康である。

三、家庭の状態、感化及び訓練—ハリーが生後十五ヶ月に達した時、父は廣告に依つて他の家庭を見付て之に委託した。今回は父は以前よりも大いなる注意を拂つて、養母が必ずハリーの養育を誤らない事を期した。此の養母（ミス・ウエーヤ）と云ふのは未婚の中年女で、少々教育がある。彼女は病身の母を世話して居るが、子供を預るのは全く生活の資を得るためだと云つて居る。其住家は三階木造のアパートメントの一部で、家具は相當整つて居り、快い感じを與へる。時々往診した醫師は最近も此住家が常に清潔でサツパリとしてゐると報告して居る。ハリーの他に彼女は幼い娘と其後又幼い男兒とを預つた。ハリーの父は一九一二年に再婚する迄短期日をおいては訪ねて來たが、其後は訪問の度數が減るやうになつた。然し父は心底からハリーに關心を持つてゐるやうに見え、父自身もハリーは愛すべき子供だと云つて居た。（尤も後妻はハリーを好まなかつた。）他の子供等の両親は頻りに訪ねて來た。段々長するに従つて此少女はハリーに「非人」と云ふ罵言を浴せた。訪問員が訪れた時の様子では、此養母はハリーに對して温い感情を有するやうには見えなかつた。彼女は人々の前も憚らずハリーの事を悪く云つたが、彼女が最早やハリーを統御して行けなくなつて居る事は容易に看取された。尤も彼女は既にハリーの訓練のために、色々な手段を講じたのである。即ち家出をした時にはハリーは三日間外出差止めを命ぜられた。又惡戯をなした時にはオヤツ又は夕食を與へられないで就床させられた。彼女は一時ハリーと同室で寝たが、ハリーの自漬を矯めたいと云ふ希望からであつた。訪問員に受持教師の語つた處では近所に住んでゐるミス・ウエーヤの甥がハリーの行動を探り且つ伯母に種々密告をして居た。でなければハリーが歸宅するなり、度々伯母にトツチめられるなど、云ふ事はあり得ない事である。

養母は本所と交渉が出来る直前迄は、父にハリーの事を訴へるやうな事はなかつた。然し其時には彼女はもう斷

じてハリーを置く譯に行かないと主張し出し、他方ハリーは是非其處を出して貰ひ度いと訴へた。目下假りに預けた養母にとつてもハリーは統御し難く其躰に於て甚だ缺く處が多いとしか見えない。

四、學歴—ハリーは滿六歳になる前に小學校に入學し、現在丁度三學年に進級したばかりの處である。彼は一學年を二度やり、二學年も二年かゝつたが、此れは百日咳のために長期の缺席をしたためであつた。教師達のハリーに關する意見は區々だ。一人の一學年の教師は、彼は教へ易い子で缺陷などはないと云つたが、他の一人はハリーは特異性の子で絶望だと云つた。二學年の教師はハリーの行動なり學力に特に異常的なものはない、時々窃盜をやるが同級の他の子供にも之をやる者が居る。寧ろ誰でも一旦通過する状態にあるに過ぎないとの意見を洩らしたが、更に他の教師は彼の學業には變つた點は認められない。唯だ彼はイタヅラなのだ。彼は學校に來る事を喜んで居るし、教師に面倒をかけた事もない。尤も彼は巧みに嘘をつき、又其の嘘を突張らうとすると云つた。教師達の皆が一致したのは彼が算術が不得手だと云ふ事であつた。

五、趣味、交友、習癖—ミス・ウエーヤはハリーが外出してゐる時に如何なる事に興味を有し、如何なる交友と交際して居るか殆んど知らなかつた。父は無論何等知る處がなかつた。家に居る時は他の少年及少女——餘り彼と年の違はない——と遊んだ。我々はハリーが如何なる遊戲、書籍及び話を最も好んだかと云ふ事に就いて何等の報告を得て居ない。臨時の委託先で觀察した處では、彼は既に噓、飲酒、不正直などを常習的にやつて居た事が明かである。彼はこんな事は皆ミス・ウエーヤの責任だ。又彼女が電話で借金の支拂ひを逃げようとしてゐるを盗み聞きした事があるなども云つた。彼は確かに放火に對する強度の妄想に罹つてゐる。

ミス・ウエーヤの言ではハリーは數年以來自演に耽つて居り、近來は過度な位晝夜の別なく又自宅たると外出

して居る時とを問はず此惡癖に耽つて居る。彼は食欲強大だが食卓に於ける行儀は頗る悪い。

六、犯罪行爲—一學年の時から彼は窃盜をやつてゐたとの事である。或る時彼は十九本の鉛筆を盗んで持つて居るのを見付けられた。又玄關の外套を片端から探したり、机の抽斗から物を盗んだりした。七歳の時近所のパン屋から盗んだり、釣錢を胡魔化したりし始めた。彼は豫め店の物を取らうと云ふ計畫をたて、使ひにやつて貰ひ度いと要求しさへした。家の者の金を盗んだ事も度々あるが、金は主として菓子を買ふために使つて居る。彼は寢臺のマットレスの下に二弗札を、又一弗札を庭に埋めた事がある。札を取つた事が知れても頑強に之を否定したから、埋めたのを掘出した處を見付けられなかつたら、遂に判らなかつたに相違ない。未だ滿六歳にならない迄に椽の下に放火しようとして見付かつた事があるし、又洗濯物の入つた籠に火をつけた事もあつた。或時彼は窃盜に對して罰せられたが、翌朝散髪代を與へらるゝや家出してしまつた。そして郊外の巡查に連れ戻されたのは其夜半であつた。此養母が彼を世話するのを拒んだのは第二回目の家出の時であつた。假りの委託先に於ける周到なる研究の期間中は彼は家出しようとはしなかつたが、猶彼は切手や引替券などを盗んで、しかも之を否定した。彼は又恐ろしく破壊的で、テンプル掛を裂いたり、ナイフを火の中に投じたり、便器の中に家具用磨油を流してしまつたりした。浴場に度々放火し乍ら、自己防衛のために散々嘘をついた。遂に彼は匿してあつた貯蓄七十弗を盗んだ。

三 本人自身の研究

一、肉體的方面—ハリーは正常で健康らしく見え、活潑で、デリケートな處もあるが、強壯な整つた體格の持主で、稍々神經質の男兒である。彼の頭部は後部から頂點へかけて扁平だと云ふ外は形は先づ良い方である。

體重六一斤。身長四呎五吋。皮膚の色良。皮膚弾力先づ良。齒狀態良。聽覺正常。視覺亂視なる外は正常。反射

總て正常。心臟異常なし。包莖なし。性的昂奮性著し。ワッセルマン反應陰。
二、精神的方面

A、心理學的検査の結果（検査に際しては彼の態度は子供らしく、愛想よく、賞讃を喜び、穿鑿的で、物事に注意を拂ひ、多辯であつた。精神病院に於ける検査に際しても協同的で興味を以て之に應じたとの報告があつた。）
(一) 年齢別考査（病院にてなした）に依れば一般能力に於いて、ハリーは普通又は稍々其れ以上の地位を占めてゐる。精神年齢指數一〇〇。

(二) 聴覚記憶の幅正常。形像に對する視覚記憶貧弱。

(三) 運動統制—書方其他の考査に依れば先づ良。心理統制不良。注意散漫。

(四) 統覺的能力—言語に於ては先づ良なるも繪畫資料に對しては貧弱。

(五) 具體的建設的材料を用ふる仕事劣悪。

(六) 言語能力先づ良。普通の用語を用ひて圓滑に話す。

(七) 世事に對する常識乏し。

(八) 學業—讀方及び書方彼の年級相當なるも、年齢に對しては劣悪。算術は極めて不良。

B、精神的平衡—自制力貧弱。訓練を缺く。尤も之は教養の缺陷を示すものかも知れない。他の點に於いては正常。
C、性格的特徴—我々の目に映する處では年齢九歳に比して子供らし過ぎる。又多辯で穿鑿的ではあるが、異常に幻想的だと云ふ證左は認められない。

養母等及び訪問員の報告では彼は愛情に富み、父を慕つて居り、父の餘り訪れて來ないのを氣にして居る。衝動的

で自制力少なく、未知の人に對してさへ感情表現著し、人の噂に興じ、時に他の惡事を態ざと暴露し、或場合は虚構の事をさへ遠慮なく喋舌る。特に好奇心強く、人の机など捜し廻り、家内の者の行動を注視する。寛大で物を怖れず、人の親切に報ひようと云ふ氣も起さないが、又少々罰せられても動ぜない。不良行爲は機會あり次第繰返す。他の子供達にはもてないし學校でも友達が出來ない。臨時の委託先の經驗ある婦人の言では、ハリーは全然躰けられて居ないし、又する事に餘りに間違ひが多いので、感化院にでも先づ收容した後でなければ他人の家庭に再び預けるのは無益だと云ふ事である。彼が前述した多額の金を盗んだ時の如き、彼は全く冤罪を裝うて何等自責の念もなきかの如くに否定し通し、自分は斷じて其金に觸れた事もない。若し自分が取つたとしたら感化院にやられても差支なしと豪語した位であつた。訪問員が來ても全然平氣を裝ふて、自らの被服を脱ぐのを手傳ふと云ふ有様、愈々札が靴下の中の踵の下から出て來た時は唯だ「マサカ見付かるとは思はなかつた」と空嘯いた丈である。

三、彼自身の陳述—此陳述は極めて僅かな質問に依つて得られたものである。ハリーは次から次へと、此方から水を向けるまゝにボツ／＼語つた。然し彼の語る處は皆正直な處の様である。陳述は大略左の如きものであつた。
ミス・ウエーヤが現在の處に移轉するまで彼は住んでゐたK街の子供等と遊んでゐたが、彼等は又「生意氣」な奴ばかり、彼等は悪い言語を用ひ、物を云ふには汚ない言葉（スウエーヤ）で云ふ他は知らなかつたし、又卑猥な事を彼に云ふて聞かせた。彼は此等「悪い言語」の實例を聞かせ、又特に尋ねもしないのに性に關する事柄を語り續けた。彼等は一年生の時分からスウエーヤし始め又「悪い事」をお互ひにする。學校ではこんな事を始終聞いてゐた。一人の子供は好んで性器を出して見せし、他の二人の子供は何だか判らぬ事を二人でやつて居た。此種の事は度々目撃した。

窃盗に關しての質問に對して、ピリーなる一少年のことを話したが、此少年は全く仕様のない程物を盗んだ。彼は非常な不良で火を燃やすのが好きだった。或日ピリーは一人の少女を連れて野原に出て行たが、火を燃やし、同時にその女の子の着物を脱がし始めた。ハリーは實際之を見たのだと云ふ。ピリーは此の少女を焼殺すつもりだったのであるが、折柄巡査がやつて來たのでピリーは一目散に逃げた。其時彼は此少女を火の中に押込んだので彼女の着物に火がついた。又或時ピリーが野原で一人で「悪い事」をしてゐるのを見た。

彼が窃盗をするのは、他の子供等がやつてゐるのを見ての思付きである。彼はリットーなる少年がスット以前に窃盗するのを見た事があるが、所謂悪い言語なるものを聞かされたのは彼が始めであつた。ハリーは窃盗をしないであると、やつて見たくて仕様がなくなる。

彼は又自漬に就いて話した。他の子供等が彼に云つて聞かせた事を思出すと、彼はいつも自漬がし度くなつた（と云つて彼は局部的昂奮に就いて詳しく説明した）。彼はおもに夜自漬をする。ミス・ウェーヤの家で共に遊んだ二人の少女はハリーの面前で裸體になり、彼に醫師ゴツコをやらうとか、一緒に床に入らうなどと云つた。然し彼はそんな事はいけない事だと云つて取合はなかつたし、彼等丈で同様な悪戯をしてゐた時も彼等を察めた。リットーが彼に云つて聞かせた事は何事でも彼に其通りさせた。「何だか知らないが僕の心を抑へてしまつて、泥棒し度くなるのだ」。放火の事でも矢張りピリーのしてゐるのを見てやつた事なのだ。ピリーは始終火遊びをした。家の中でさへやるのだつた。

（此の陳述の大略から見ても、ハリーは此等少數の質問に對して彼の心中に充滿した事柄を繰返々話した事が看取せられる。即ち窃盗、自漬、彼自身の習癖、少女等の行爲、他の男兒達の自漬や談話、火遊等の概念が彼の心を

占有して居たのである。之等は雜然と纏りもなく彼の唇から吐出されたのであるが、而かも相互に密接な連關を持つてゐたのである。）

彼は最近數日間預けられた婦人を好いてゐる。彼女から金を盗んだが、菓子を買ひ度く又映畫が見たくなつたからである。彼の母は死んだのだと彼は云ふ。

（此等の事實の内或物は訪問員及び臨時委託の婦人に話した事と符合する。後者は既に彼の性的昂奮性に氣がついて居たし、他の者が自漬をなしてゐるのを見たとき彼が彼女に語つた事もあつた。又訪問員には他の少年達が互ひに自漬をなし又物を盗んでゐる事を話して聞かした事がある。）

四 従事員會議の決議事項

一、問題—犯罪行爲—數年に亘る金品の窃盜、最近多額の金を盗む。數回の危険な放火。家出二回。（彼の將來に於ける精神的發達に關する問題も考慮に入れる必要がある。）

二、肉體的状态—發育及び營養正常。軽度の亂視。著しき性的昂奮性。體格良、容貌快感を與ふ。活潑にして應答性强し。

三、精神的狀態

A 才能—一般才能普通。學業に於ては多少遅れた方。

B 精神的平衡—精神的不平衡を特に立證するものなし。注意集注は劣悪。

C 性格—子供らし。多辯。自制力なし。注意散漫。躰け悪し。利巧を裝ふ風あり。匿し立てはしない。寧ろ愛すべき性質を有す。彼に關する報告は區々たるものがある。或ものは心理的異常ありと云ひ、他のものは彼は正常

兒だが不良なのだ云ふ。

四、背景

A 遺傳—父及彼の家族異常のものなし。母家族を遺棄せるも異常的にはあらずと思惟せらる。彼女の家族員正常。
B 發育—不幸なる妊娠。嬰兒期に於ける榮養不良及び多分軽度の英吉利病。歩行及言語の發達遅し。七歳の時重
き肺炎。

C 家庭の状態—嬰兒期より里子に遣らる。始めは養育不行届。後肉體的方面に於ては可成良き世話を受く。

D 習癖—自潰數年に互つて、時々過度になる。

五、犯罪行爲の可能的直接原因

A 良き兩親の監督、信頼すべき者及び家庭教育の缺除。

B 家庭近隣及び學校に於ける惡交友。

C 早期に於ける性に關する好ましからぬ智識及び經驗。

D 不良行爲の結果に伴ふ快味及び之等に對する防禦物の無かりし事。

E 習慣形成—性的惡癖及び犯罪行爲に對する誤れる觀念の取得。

F 連想作用の旺盛。

六、豫後及び提議—精神的發達に關して豫後を明言する事は避け度いが、ハリーは猶充分觀察する必要がある。何故なれば、彼の教養は極めて貧弱で、幼兒に要する躰けさへもされて居ないからである。彼の不良行爲に關しては今後猶改善の餘地ありと思惟さる。問題は表面的なものにとゞまるやうである。感化院等に收容するは不可。寧ろ田舎

の良き家庭に委託し一般的訓練を與へ、性的習癖と妄想より解放せしむるやう指導し援助するを得策とする。治療の詳細に關しては一々具體的に打合せをなすべきである。眼鏡を用ふるが可ならん。

五 其後の經過、治療及検査

一、臨時委託—ハリーは本所から市内の一アパートメント内の一家庭に假りに返された。養母は健全なる興味を與へやうと本所の指導の下に特別の努力を拂つた。彼女も彼女の夫もハリーの問題を研究し解決する事に興味を持つた。やがてハリーは庭先の野菜園に興味を持ち始めたので、之を利用して彼を改善せしめようとしたが遂に彼等は失望した。彼等の達した結論は彼は精神的に何か缺陷があり、犯罪者たるべき凡ゆる素質を持つてゐると云ふのであつた。(此僅か九歳の小兒に於いて犯罪者たるべき凡ゆる素質を持つてゐると云ふ事は我々の永年の經驗に照しても不可解の事であるが。)

二、農村の家庭に於ける生活—其後三週間に於てハリーは農村の美しい丘に圍まれた位置にある一家庭に引取られた。大きな農園があり、家畜も多數飼つて居る家である。此家は中年のF夫人と二十三歳の未婚の娘と丈であるが、二人の息子は當時(一九一八年)出征してゐた。F夫人は最初ハリーを預る事を拒み、愈々預つても一ヶ月試みると云ふ條件であつたが、一度ハリーを見るや彼が氣に入り、問題の困難なものも承知の上で一ヶ月の後も彼を世話する事に決定した。

最初ハリーは嚴しい監督下にはあつたが、而かも屋外で充分の運動をするのを許された。やがて彼は農園生活に適應するやうになつた。家畜類に興味を感じ、牛乳を搾る事や小仕事をする事を習得した。彼は機械が好きで、色々な道具を用ふる事を習つた。或時變なものではあるが時計の部品を組み立て、動くやうにした。冬になるとスケ

トに興じ、夜は本を読んで貰つたが之は餘り喜ばなかつた。實際何を讀んで貰つたのか記憶しても居なかつた。夏になるとハリーは彼自身で一寸した畑を作つて野菜などを栽培し、出來たものは賣つた。又水泳に行つたり、犬と遊んだり、一家の寵愛の老馬に乗つたりした。彼は度々本所の訪問員に手紙を寄したが、綴字には極めて誤りが多かつた。兎に角此處では毎日する事が多くて多忙な日々を送つた。

ハリーは子供の友達と云ふと學校以外には少しも出來なかつた。唯だ夏期に時々訪ねて來た一少女とは仲良く遊んだ。

始めの數週間の後は彼の行爲に困つた事と云つて別に無かつた。一、二度生意氣だと云つて擲られた事がある。一週間毎に何か善行があつたり手傳ひをした時は五仙宛貰つた。訪問員の報告に依るとF夫人の訓練は首尾一貫して居り且つ適切だとの事である。ハリーは心から彼女を好んで居るやうであるし、此所へ來て數日後から彼女を喜ばせるやうに努めた。訪問員は屢々ハリーに手紙を出し、彼の手紙を訂正したり色々な事を教へて彼を勵ました。其二ヶ年の間に多少弛緩した事があつた。即ち小額の金を盗んだり、不正直だつたり、又一寸した事に不信用な事もあつた。彼は自己防衛的についてゐる彼の嘘を持餘す事があつたが、直ぐに正直に告白するやうになつた。

父と彼の妻はハリーに手紙を出し、クリスマスには贈物をし、時には彼を訪ねた。無論彼の食費はキッチンと支拂つた。

ハリーは其村の小學校に通學したが、此小學校は殆んど單級とも云ふべきものだつた。此小學校の兒童は皆出來さへすれば隨時一つの教科書から、或ひは學課から他へ進んだ。訪問員の見た處では、此等の兒童は遲鈍さうで、清潔に對する標準も低いやうであつた。然しハリーが入學した最初の年には丁度特別に良い教師が居て、彼に讀方に連

想表象や音を應用して特に教へてくれた。間もなくハリーは學校で讀方が最も上手になつた。此教師はハリーは非常に創意的であり又音楽及び圖畫は成績が良いが算術又は甚だ進歩が遅いと云つた。

翌年來た教師は若い女教師であつたが、ハリーを進歩させる事は出來なかつたのみか、彼を低能だときへ云つた。一九一八年の夏彼はF夫人の子で初め大學に通ひ後戦争に行つた青年から鳥類に就いて色々教へて貰つた。其冬には毎日彼は新聞を讀み、其地方の時事問題の話が出来る迄になつた。彼は學校から歸つて生理學や衛生に就いて習つた事を話して聞かせる事も出來た。

F家に於ける二ヶ年間の彼の性格的特質に關する報告を見ると、種々雑多なものを持合して居ると云ふ事が判る。彼は騒々しく、活動的で落着きがないし又饒舌家だと云ふ報告があるかと思ふと、又彼は何時も好意的で、命ぜられた事は忍耐を以て遂行したと云ふことになつて居る。尤もF夫人自身ハリーは此の持前を缺くやうなことも時にあつたとも云つてゐる。彼は總ゆる事柄に興味を有し家の者の行爲に關して種々な質問をした。實際彼はF夫人に對しては沒我的な愛情を示し、彼女の留守の時など彼女を喜ばせようと特に行狀に注意した。

彼が虚榮的なのと家庭の秘事を素破抜いたりするので、F夫人は時々困らせられる事があつた。一般的に云つて彼は猶ほソ、ッ、カ、ン屋で氣まぐれで説論しても結果は不満足な方であると家族の者は云ふ。彼は取止めのない質問を屢々するし、學校では彼が時々馬鹿な事を云ふので他の子供と面倒を生ずる事がある。彼は學校で専ら「道化者」だと稱せられて居る。何事でも眞直に物事を理解する事は困難で、さうしようと思つても實際使ひに行つたり傳言をやらせると間違つてばかり居た。彼には復讐心などは全く無く、學校では臆病者だとの定評を受けて居た。

F家の人々はハリーが性的には何等の惡癖を有しないと云つてゐた。實際彼は珍らしく純潔な心の持主だと思つ

て居た。然し彼等はハリイが實に變な事を時々やる事がある、即ち地に身を投げて、ハタ打廻るなどがそれであると云つた。

一九一九年の九月に第三番の教師が赴任して來た。彼女は教養もあり仲々良い教師であつた。彼女の見る處ではハリイは市部の小學校の第三學年の程度にしか達して居なかつた。又彼は一人で教師の監督下に勉強する方が團體的にやるよりも餘程効果があるやうである。彼は長く注意を集注してゐる事は困難で、馬鹿らしい質問を續發するとも報告して居る。

六 第二回目の研究

(一九一九年十一月)再度の研究のためにハリイはボストンに來た。彼は來たく無かつた。と云ふのは再びF家に歸れないと心配したからであるが、而もボストンに於ける臨時の委託先ではF家の事に就いて正直に云つて居ない。

一、身體検査——診療所に於いての検査に依れば、ハリイは體重二十斤を増加し、二ヶ年間に身長六寸の成長をなした。體質的には全く健全であり、ワッセルマン試験は陰性、鼻汁多少不良なるを認む。扁桃腺多少肥大せるも手術する程の事なし。目下齒の手入中。齒科醫院に來る度に彼は非常に臆病である。神經病的異常性なく性的昂奮性の證跡認められず。

二、心理學的考查——二日に及ぶ心理學的研究の結果左の諸點が判明したが、彼の特殊的診斷に重要な意義を有するものである。

A 諸才能——一般智能はスタンフォード・ビネー規準に依りて考查の結果正常。諸才能先づ良。曆年齢十一歳七ヶ月。知能年齢十歳八ヶ月。知能指數九二。之等の諸考查は同一時になされたが、諸能力の差異甚だしく之等を各

別に考查して果して同一の成績となるや疑はし。肉體的動作に於ける及び精神的統御、新しき聯想物の習得、心理的表現、計劃能力、學業成績等皆極めて劣悪。理性判斷、概括、統覺及具體的事物に依る作業等は先づ良。讀方の理解は比較的良。

B 精神的平衡——意志力薄弱。注意の集注短時間のみ可能。注意極めて散漫。往々彼自身の思考の連續に陥る。新しき考案續發し饒舌的。聯想は切線的にして奇矯。感受性は敏速なるも變轉的。感情の統制は一般的に良。判斷及思考力先づ良。

C 性格——友情的、愛着心あり。命ぜられた事は喜んでなし、少年としての趣味は一通り有するが、餘りに子供らしき迄に物を怖しがらる。注意極めて散漫にして喜戯に長じ活動的にして好奇心強し。彼の多辯とゴシップのため面倒を生ずる事多し。此故に他の兒童に交友を得る事能はず。命令や傳言を聞いても混同し信賴す可からず。時に不正直なるも普通は正直で、赤裸々、應答敏速にして常に幸福さうに見ゆる。

D 診斷及提議——未だ道德的壞敗の兆なし。自己統制力に於て素質上の缺陷を有するか或ひは準狂氣的傾向を獲てゐると思はるゝが多分前者ならん。

豫後は疑問。精神錯亂に至るべき重大なる傾向あり。今迄受けつゝありし良き保護を繼續する他に良き方法なからん。(ハリイは最早や彼の不良行爲に於ける問題を提供せるものでなく、寧ろ心理的困難に逢着せる者なる事は愈々確かだと云ふ事が出来る。)

七 農村養家への復歸

(一九一九年十一月)ハリイは過去二ヶ年滞在した農村の養家へ歸つた。然るに其後二ヶ月にして彼が非常に悪化し

つゝある事を養母は報告して来た。「彼は最早や私の手に餘るやうになつた。時々或事柄に於て巧くゆく事はあつても、家庭に於て彼は非常な厄介者になつて来た」との事である。彼は小屋に入り込んで煙草を吸ふやうになり、種々な悪戯に浮身をやつし、家の中を探し廻る。F夫人は長い間の彼女の努力が今や全く水泡に歸したのだ。唯だ身體のみが丈夫になつたのみだと嘆いてゐる。ハリーは今は何をしても云つても其家庭に居れるものと思つて居るらしく、近來特に悪化して来たやうだ。ボストンに於ける考査や検査の結果は、彼が非常な昂奮状態にあつた事に大いに影響されてゐた。彼は今や全く自由に感じて、今迄預つた子供の内でも最も彼女を手古摺らせてゐるとの事である。其後更に二ヶ月してF夫人はもうハリーを預つては置けないと申出て来た。ハリーは不斷に色々な事を喋り廻り、厄介ばかりかけてゐる。そして彼は何かと人々の注意を惹くやうな事ばかりをする。學校の成績は全く精神缺格者のそれに他不ならないと教師は報告してゐる。

今彼を世話して居る社會事業團の訪問員が本所及父と打合せに來た。本所では彼が低能だとは考査の結果思つて居ないが、低能者のための施設でしつかり訓練して見るのも良いかと考へた。と云ふのは専門的觀察が何等か彼の問題の解決に光明を與へ、又彼は學校に於て何等進歩を示して居ない處から、精神缺格者の教育法が役に立つかも知れないと思つたからである。

八 收 容

(一九二〇年三月)ハリーは或る有名な低能者のための學校へ觀察のために收容された。父が申込をした。考査の結果左の如し。

一、身體検査—年齢に比して身體大、筋肉其他の發達良。別に異狀を認めず。

二、心理學的考査—スタンフォード規準に依る考査の結果九・十二分の二、I・Q・七五。理解力良。注意散漫。記憶力貧弱。自己の進むべき目的を忘れ落着きななし。(此I・Qの低下は、多分收容されたるを以て失望したる結果には非るかと思はる。)

ハリーは略ぼ彼と同様の智能年齢を有する約百名の兒童と同一の寄宿舎に入れられた。其後數ヶ月の彼の行爲に關する記録は左の如し。

彼は自己よりも年若き者と交らんとする傾向を有する。(之は戶外に於けるスポーツに對して興味を有しないからであると説明されてゐる。)彼は自己の風采に關しては非常に注意を拂ひ、潔癖で氣は好い方で、多辯で子供らしい質問をしては人を困らせる。彼がソワソワして居り、且つ愚問を發する處から、他の者によく馬鹿にされた。特に悪い傾向がある譯でもない。彼が收容された當時は彼は非常に昂奮して居て、「次は何をするんだ」とか、「之がすんだら何か又他の事をやるのか」と云ふやうな質問ばかり發して居た。教師が何處に居やうが彼は自席を離れて質問に行く。又或時など午後三、四回も態々教師の處に行つて「貴女僕が好きですか」と尋ねる。彼はスポーツに向興味を有たない。或時彼は毛皮の首巻を持つて之に接吻、又他の子供等にも接吻するやうに獎めてゐた。

暫時の觀察の後彼は正式に收容される事になつた。其後數ヶ月してからの學校の報告は次の如くである。第三讀本を良く讀む。第四ならば六ヶ敷い言葉でマゴつく。第三年の綴方に於て不良。加減乗除の理解あり、三桁の掛算をなし得。割算は相當六ヶ敷いものをなし得るが不注意である。書方は時に讀み難い程墨筆、模寫に於いてさへ拙悪。其後彼は織布に秀で、織機の組立及修繕を巧くやるやうになつた。織布に於て他の子供の指圖をうまくやつた。

ダンス及室内の静かなゲームには非常な興味を有する。寄宿舎に於ける彼の操行に特に注意に値ひするものなし。彼は暗示を受け易く他の子供の云ひなり放題になる。

此の院舎に居る間に、経験に富める所長は記して曰く「I・Q・七五は劣等と缺格との境界線を意味するが、ハリーは非常に精神病のようになって居り、昂奮性でうつり、氣であり、神経質にして暗示を受け易く、軽度の精神的缺格と高度の精神病的傾向を示して居る。春情發動の暴風期を前にして、彼は眞性の精神病に冒かされるかも知れないと思はれる。静かな生活に於て問題の兒童の取扱ひに慣れた人に依つて保護されねばならない」と。

然し前述の記録に反して、一年後に於てハリーは其昂奮性を減じ、言葉數も少なく子供として健全な趣味を持つやうになつた。(兎も角も特に病的な子供でない事が實證された譯である。春情發動期に兒童が昂奮性を發揮するのは精神病的な者に限つた譯では決してない。)

九 再度農村の養家へ

(一九二二年六月)ハリーは再度低能者教育院から逃亡しようとして失敗し、第三回目成功した。彼自身の云ふ處は多分信憑するに足ると思はるゝが、或る人が彼に鐵道乗車券を買與へたのである。此人は自らの弟が此種の施設に收容されてゐた事があり、如何に其處を脱出する事を欲して居たかを知つてゐると云つたとの事である。ハリーは停車場から數マイル歩いてF家の農園に辿り着いた。F夫人は他に引越して居た。然し彼女の甥で同姓の者が近くに住んで居り、ハリーと知合であつたので彼を迎へ入れたが、直ちに前記教育院と父とへ通知した處兩者共ハリーが其處に居る事に同意した。

F氏は人格者で教育もあり、勤勉家であつた。彼には數人の子女がある。彼の家は善く整備され、良書が多かつた。

夏期にはハリーは食費を自ら儲ける事が出来た。F氏の報告に依ればハリーは農園では役に立ち、皆に好かれ、家族の者皆を好いて居るとあり、且つハリーの性格に就て細かく述べてゐる。即ち彼は快活で、従順で、普通の子供同様に勤勉である。尤も多少不注意の處はある。如何なる始めての仕事でも喜んでなす。彼は時に他の子供に對して不親切であつたりするが普通寛大でやさしくする。時々狡猾だつたり小さい事にはあるが不正直な事もある。彼は物事に對する價値の比較と云ふものが出来ならしく、又無責任な事がある。彼は大いに讀書し、良をかけたたり冒險したりする話しが好きである。學校ではよく勉強し眞面目にやつてゐるとの報告である。彼は六學年を終へんとしてゐる(一九二二―三年)が、教師がどれ丈彼を徹底的に指導してゐるのか疑はしいとF氏は云つてゐる。F一家はハリーの交友の質には猶ほ感心して居ないやうである。(教育院に送られた事を彼は非常に嫌つて居り、再び行き度くないと云ふ考へが彼を善化せしめたのかも知れない。すると自制心なるものゝ重要性が認められる譯である。)

一〇 第三回目の研究

(一九二三年二月)ハリーは三度本所に伴はれて來たが、そは其後の彼の改善の跡を確むるためであつた。

一、身體検査―體重一二二斤。身長五呎六吋。性器發達年齢に比して普通。胸部の發達充分とは云へないが、可成り強壯である。體格瘦氣味。皮膚の色良。眼色良。反射總て正常。腱反射稍活潑に過ぐ。風貌甚だ良。尤も表情に於て充分活氣を有し應答に敏速であるとは云へない。心臓鼓動稍不整。心臓收縮變調より來る微音の疑ひあり。

二、心理學的考査―三日間繼續考査の結果次の如き諸點を診斷するを得た。

A、諸能力―一般智能(スタンフォード・ビネーに依る)正常。各能力の方面に寧ろ劣る處あり。曆年齢十四歳十ヶ月。智能年齢十二歳七ヶ月。智能指數八五。ポータス、ケリー・ツラビニー其他の諸検査に於て普通の成績

を得た。多種の試験をなすに大いなる不同あるを見る。其内最も注意すべきは左のものである。各種概念の把握に於て彼は非常に優れて居る。無意義事項よりも有意義事項の記憶に於てより優れ、肉體的動作の統制に於ては普通なるも、精神的統制力に於ては貧弱、容易に混亂に陥る事あり。普通の場合に於ては彼の年齢の者としては可成り計劃を立て、爲す事を得。視覚に依る記憶力貧弱。視覚的表現も貧弱。聴覚に依る記憶力普通。具體的事物の習得遅し。彼の年級としては彼の學業成績及び常識發達せるも彼の年齢に比しては貧弱。

二、精神的平衡—靜かなる方。精神的統制良。注意散漫ならず。會話に於いて終始一貫不合理の點なし。心理學者及精神衛生學者に依つて再度研究し又他の精神衛生學者に依りて始めて研究したる處に依れば精神病的兆候と認めらるゝもの更になし。

四、性格—彼は丁寧、沈着、敏速、落着き等の特徴を有す。事實今回度々長時間待たされた時も極めて平靜なる態度を示した。彼は友情的で人々に快く接し、又其地方に見らるゝ典型的な頓智をさへ持つ。彼は冷靜に計劃的に物事をなすが、問題に接するや先づ急速に之に當らんとする傾きがある。多少の不良行爲あるを自認す。即ち嘘をついたり、牛等に對して怒つた時に罵言を吐く事などがそれである。都會の街道等に立ちて觀察する事に非常な興味を持ち、斯く觀察せる處と、農村に於ける状態等との比較に於ては正鵠を得てゐる。

一一 彼自身の陳述

彼はF一家の事及び父の事を善く云ひ、父がボストンに來た機會を利用して會ひ度く思つて居る。又彼は農村に居て百姓になる希望を有する。例の教育院は彼は好まぬ。最後に彼が脱出した時に、それを提議した子供は間もなく氣が變つて院へ歸つた。ハリーは人々にF一家の住んでゐるAへ如何して行くかを尋ね、又自分の弟が同種の處に收容

されてゐて、どれ丈出たがつかつてゐるかを知つてゐる一人の男に出會した。彼はハリーに汽車賃として五弗呉れた。ハリーは再び彼處へ返されないうやうに眞面目にやるつもりである。農園でやつてゐる良かけや狩獵が非常に好きだ。其村の學校の兒童の或者共は良くない。彼等は卑しい事を語るが、別に取立て、云ふ程悪くもないだらう。自分は今何等惡習慣には陥つてゐない。

本所で調べた處では、彼が今有する唯一の問題は彼の操行の事である。特に嘘をつく事であるが、彼が若し之を改めないとF家に居る事は出来ないだらうと告げた處、彼は熱意を以つて將來改むる旨答へた。

一二 結 語

此ケースを撰んだのは心理學者、精神衛生學者及び犯罪研究者にとつて、特に興味ある種々なる點があるからである。特に精神力の統制に於ける素質的缺陷を示す代表的ケースと思ふからである。

精神衛生學者にとつて此ケースは豫後的考察を必要とする特殊診斷上の問題を提供するものであらう。更に此内に思春期に於ける兆候を新しい光明に依つて觀る事が出来るが、それは此期に及んで性格上の落付きが増進して來る事が認めらるゝ場合のある事で、之は普通の教科書では教へない事である。又此ケースは精神衛生上の問題が大部分解決された實例として價値あるものである。

心理學者に對して此ケースは種々なる新しい事實を示す資料を提供する。即ち此少年が普通の才能を有せるにも拘らず、彼の最善なるものを表現するに不適當なる状態に在つては、恰も缺格者の如き結果を齎らしたと云ふが如き、又實際的診斷及教育的可能性に關する事柄として、著しき能力又は不能力なるものは往々恒久的に存するにも拘らず、之等は智能指數に依つて示す事は困難であり、況して普通の年齢別テストに於て別々に得られた結果等に依つて、完

全には判明せしむる事を得ないと云ふ事等である。

犯罪問題研究者にとつて此ケースは行爲上の問題の見事に解決された實例を提供する。我々は行爲上の諸傾向を形成するに如何に環境の力の偉大なるかを認めざるを得ない。而して之は彼の精神的異常性よりも餘程重要な又より直接的意義を有するものである。我々は此處に精神的及道德的健全性を養ふに當つての可能性を發見するが、そは此場合首尾一貫せる訓練と同情ある理解を有し、日常生活の健全なる基礎を有する家庭に委託する事に依つて得られたのである。

斯く表面的には根強く形成されたと思はるゝ不良行爲上の諸習慣の消滅が如斯迅速に出來たと云ふ事は深く學ばねばならない事である。此點を心理學的に研究する事は最も興味ある事である。

他に多くの注意に價ひする事柄が、此ケースの内に見らるゝが、其内特に立證される事は「自制」なるものは随分貧弱なる持主にとつても普通實行されてゐるよりも更に多く實行され得るものと云ふ事である。

(Judge Baker Foundation, Case Studies : Series 1, Case 14)

参 考 書 目 録

- American Association of Social Workers: Social Case Work, Generic and Specific: An Outline: A Report of the Milford Conference, 1929.
- Bogardus, E. S.: Methods of Training Social Workers (mimeographed), 1929.
- Cannon, M. A. and Klein, Philip: Social Case Work: An Outline for Teaching, 1933.
- Cleveland Associated Charities: Forms and Other Printed Material.
- Conklin, Edmund S.: Principles of Abnormal Psychology, 1927.
- Devine, E. T.: Social Work, 1927.
- First International Conference of Social Work, Paris: Proceedings, 1929, Volume II.
- Halbert, L. A.: What is Professional Social Work? 1923.
- Judge Baker Foundation: Case Studies: Series 1: Cases 5, 14 and 17.
- 松本潤一郎「英米社會學」春秋社版大思想エンサイクロペディア「社會學」中
- Queen, S. A. and Mann, D. M.: Social Pathology, 1925.
- Richmond, M. E.: Social Diagnosis, 1917.
- ": What is Social Case Work? 1922.
- Robinson, V. P.: A Changing Psychology in Social Case Work, 1934.

Russell Sage Foundation: Social Work Year Book: Volumes 1-4, 1921, 1933, 1935 and 1937.
 Seligman, E. R. A. and Johnson, A.: Encyclopaedia of the Social Sciences, 1933.
 Sheffield, A. E.: The Social Case History, 1920.
 " : Case-study Possibilities, 1922.
 竹内愛二 思慮ある母達の爲に—児童教養の社會學的考察 日曜世界社版
 University of Chicago Press: Proceedings of the National Conference of Social Work, 1931 and 1936.
 Watson, Frank D.: The Charity Organization Movement in The United States, 1922.

ケース・ウォークの理論と實際(をばり)

昭和十三年 六月二十二日初版印刷
昭和十三年 六月二十八日初版發行

ケースウォークの理論と實際
定價 金貳圓五拾錢



著者 竹内愛二
 發行者 株式会社 巖松堂書店
 代發者 波多野一
 印刷者 河田保治
東京市神田區神保町二丁目二番地
 東京市荒川区戸塚四丁目三〇番地

發兌元 東京市神田區 神保町二丁目 巖松堂書店

電話九段(34) 四一三三五番 四一三三六番
振替口座東京六五五六番

松 隆 堂 書 店 刊 行 書

小川市太郎著	北澤新次郎著	金子直吉著	出井盛之著	吉田秀夫著	田所輝明著	山川均著	笠森傳策著	岡田實著	福本榮譯	石川義昌譯	野村信孝著	八木澤善次著	松浦要著	松浦要著
新稿	經濟思想史研究(上卷)	經濟野話	行動經濟學の立場より	黎明期の經濟學	プロレタリア經濟學	國民經濟學大意	經濟學の基礎原理	經濟學綱要	セリグマ ン 經濟學原論	法 制 經濟學概要	經濟學序說	經濟學講義(上冊)	經濟學概說	經濟學概說
定價 三・三〇 送料 二二〇	定價 二・五〇 送料 二二〇	定價 一・二〇 送料 一四〇	定價 二・五〇 送料 一四〇	定價 三・五〇 送料 二二〇	定價 七〇 送料 六〇	定價 二・五〇 送料 一四〇	定價 一・八〇 送料 一〇〇	定價 五・〇〇 送料 二二〇	定價 一・〇〇 送料 一〇〇	定價 三・五〇 送料 二二〇	定價 二・三〇 送料 一四〇	定價 二・三〇 送料 一四〇	定價 二・五〇 送料 一四〇	定價 二・五〇 送料 一四〇

松 堂 書 店 刊 行 書

大鹽龜雄著	池田英次郎著	内池廉吉著	小林行昌著	小林行昌著	長滿欽司著	池田龍藏著	東京商工會議所編	東京商工會議所編	吳文炳著	沖中恒幸著	金原賢之助著	金原賢之助著	佐原貴臣著
現産業地理講話	市場分析	市場要論	關稅經濟論	商配給論	取引所要論	無盡夜話	日滿支經濟問題講話	アメリカの新經濟政策と金融統制	金融・銀行・信託	金融機關の綜合的研究	金・貨幣の若干問題	世界經濟の動向と金本位制度	貨幣の職能
定價 三・三〇 送料 三三	定價 一・八〇 送料 一四	定價 一・五〇 送料 一四	定價 三・八〇 送料 二二	定價 三・四〇 送料 二二	定價 三・〇〇 送料 一四	定價 一・三〇 送料 一〇	定價 一・九〇 送料 一四	定價 一・五〇 送料 一四	定價 二・三〇 送料 一四	定價 三・五〇 送料 二二	定價 二・五〇 送料 一四	定價 三・五〇 送料 二二	定價 二・〇〇 送料 一五〇

松 堂 書 店 刊 行 書

友岡久雄著	青木得三著	青木得三著	青木得三著	石井靜人譯	田所輝明譯	關口健一郎著	波多野鼎著	波多野鼎著	波多野鼎著	波多野鼎著	波多野鼎著	田崎仁義著	關未代策譯
貨幣論	改訂貨幣論	改訂銀行論	貨幣銀行通論	近代資本制發達史	近世の帝國主義觀	景氣變動論	折衷學派の價值學說	折衷學派の價值學說	折衷學派の價值學說	折衷學派の價值學說	折衷學派の價值學說	經濟學史概論	經濟學史
定價 一・二〇 送料 一四	定價 三・五〇 送料 二二	定價 三・五〇 送料 二二	定價 三・五〇 送料 二二	定價 三・〇〇 送料 二二	定價 八〇 送料 六	定價 一・三〇 送料 一四	定價 二・五〇 送料 一四	定價 三・〇〇 送料 二二	定價 二・八〇 送料 二二	定價 二・八〇 送料 二二	定價 二・八〇 送料 二二	定價 三・〇〇 送料 二二	定價 三・八〇 送料 二二

書行刊店書堂松慶

青木得三著	山田幸太郎著	北崎進著	北崎進著	井藤半彌著	井藤半彌著	井藤半彌著	松下周太郎著	小濱重雄著	小濱重雄著	小濱重雄著	實源整備調査局編	三菱經濟研究所編
歲入	大藏省預金部論	財政學概説	財政學新講	國家財政概論	租稅原則學説	財政學原理	財政學要義	戰時原料保障論	戰時產業施設考	戰時經濟方策論	列強軍需資源論	世界經濟の現勢
近刊	定価 二〇〇 送料 一四〇	定価 四〇〇 送料 三二〇	定価 一八〇 送料 一四〇	定価 二〇〇 送料 一六〇	定価 二〇〇 送料 一六〇	定価 三〇〇 送料 二四〇	定価 四〇〇 送料 三二〇	定価 二〇〇 送料 一六〇	定価 三〇〇 送料 二四〇	定価 三〇〇 送料 二四〇	定価 二〇〇 送料 一六〇	定価 三〇〇 送料 二四〇

書行刊店書堂松慶

永井亨著	稻田昌植著	淺見登郎著	松岡正男著	稻田周之助著	清水滿重著	郡菊之助著	井上謙二著	道家齊一郎著	森數樹譯	錦織理一郎著	竹下清松著	森數樹著	青木得三著
日本人口論	植民地と農政論	日本植民地統治論	植民地新論	植民地自治制度論	植民地自治制度論	景氣指數論	經濟調査の統計的知識	統計學	統計學	統計學總論(上册)	統計學原論	統計學概論	地方財政の理論
定価 三五〇 送料 二二〇	定価 二〇〇 送料 一四〇	定価 三五〇 送料 二二〇	定価 二〇〇 送料 一四〇	定価 一九〇 送料 一四〇	定価 二八〇 送料 二二〇	定価 三〇〇 送料 二四〇	定価 二五〇 送料 二〇〇	定価 三〇〇 送料 二四〇	定価 四〇〇 送料 三二〇	定価 一八〇 送料 一四〇	定価 三〇〇 送料 二四〇	定価 三八〇 送料 三二〇	定価 一〇〇 送料 八〇

書行刊店書堂松巖

生江孝之著	永井亨著	桐原義見等著	榎田保之助著	熊谷憲一著	熊谷憲一著	森田良雄著	梅浦健吉著	緒方備雄著	山岡龍次著	早田正雄著	大林宗嗣著	松下芳男著	小林良正譯
訂增社	社會政策體系	勞働科學論	民衆娛樂論	改正健康保險法精義	疾病保險論	失業保險論	ソツエートの社會保險	失業問題と救済施設	救護法と失業保險	私生子保護すべきか	女給生活の新研究	無産階級と國際戰	マルクスの支那印度論
定價 三・八〇	定價 一・八〇	定價 二・五〇	定價 二・五〇	定價 五・〇〇	定價 三・五〇	定價 三・〇〇	定價 一・八〇	定價 二・五〇	定價 一・〇〇	定價 一・〇〇	定價 一・七〇	定價 六〇	定價 六〇

書行刊店書堂松巖

永井亨著	大石兵太郎著	黒川純一著	内田繁隆著	金子鷹之助著	井森陸平譯	新明正道編	新明正道著	小松堅太郎著	遠藤隆吉著	小林郁著	今井時郎著	今井時郎著	阿部源一著
國民精神と社會思想	群衆心理學	輓近社會學の動向	日本政治社會思想史	社會哲學史研究	ニース共同社會と利益社會	現代知識社會學論	形式社會學論	社會學論考	社會學原論	訂改社會學概論	社會誌學研究法	社會學大綱	人口・資源・植民地
定價 八〇	定價 三・二〇	定價 二・〇〇	定價 三・五〇	定價 四・〇〇	定價 三・三〇	定價 二・〇〇	定價 五・〇〇	定價 四・五〇	定價 二・八〇	定價 三・五〇	定價 一・八〇	定價 二・〇〇	定價 二・八〇

松堂書店刊行書

小河滋次郎著	社會事業と方面委員制度	定價 一・八〇 送料 一・四〇
鶴岡操著	醫療經營と其の社會化	定價 二・三〇 送料 一・四〇
小澤一著	救護事業指針 <small>(救貧の理 論と實際)</small> <small>(上製並製)</small>	定價 二・八〇 送料 二・五〇
竹内愛二著	ケースワークの理論と實際	近刊
國際勞動局編	各國法制上より見たる労働團結の自由	定價 一・八〇 送料 一・四〇
永井亨著	労働問題と失業問題	定價 二・八〇 送料 一・四〇
萩原隆吉譯	コール英國労働階級運動略史	定價 二・〇〇 送料 一・四〇
小浦六助著	我國に於ける労働運動戰術の解剖	定價 三・五〇 送料 二・二〇
村島歸之著	労働爭議の實際知識	定價 一・八〇 送料 一・〇〇
中村萬吉著	労働協約の法學的構成	定價 四・〇〇 送料 二・二〇
佐野學著	農村問題	定價 七〇 送料 六〇
有馬頼寧著	農民離村の研究	定價 一・五〇 送料 一・四〇
稻田昌植著	農家經濟の新研究	定價 五〇 送料 六〇
栗原藤七郎著	農業經濟學	定價 七・〇〇 送料 三・二〇
石坂橋樹著	農業經濟學	定價 七・〇〇 送料 三・二〇

